

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年1月25日
【計算期間】	第22特定期間 （自 2022年4月26日 至 2022年10月25日）
【ファンド名】	G S アジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コース
【発行者名】	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 金山 悦子（旧姓 小林）
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木六丁目10番 1 号 六本木ヒルズ森タワー
【事務連絡者氏名】	法務部 山崎 誠吾
【連絡場所】	東京都港区六本木六丁目10番 1 号 六本木ヒルズ森タワー
【電話番号】	03-6437-6000
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

本ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主に日本を除くアジアの米ドル建てハイ・イールド債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

■商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型 追加型	国内 海外 内外	株式 債券 不動産投信 その他資産 () 資産複合	MMF MRF ETF	インデックス型 特殊型 ()

(注) 本ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

- ・追加型・・・一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
- ・海外・・・投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
- ・債券・・・投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

■属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式 一般 大型株 中小型株 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 () 不動産投信 その他資産 (投資信託証券 (債券)) 資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型	年1回 年2回 年4回 年6回 (隔月) 年12回 (毎月) 日々 その他 ()	グローバル () 日本 北米 欧州 アジア (日本を除く) オセアニア 中南米 アフリカ 中近東 (中東) エマージング	ファミリー ファンド ファンド・ オブ・ファ ンズ	あり () なし	日経225 TOPIX その他 ()	ブル・ベア型 条件付運用型 ロング・ショート型 / 絶対収益追求型 その他 ()

(注) 本ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

- ・その他資産（投資信託証券（債券））・・・目論見書または投資信託約款において、投資信託証券への投資を通じて実質的に債券を投資収益の主たる源泉とする旨の記載があるものをいいます。
- ・年12回（毎月）・・・目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
- ・アジア（日本を除く）・・・目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
- ・ファンド・オブ・ファンズ・・・目論見書または投資信託約款において、投資信託証券などを投資対象として投資するものをいいます。
- ・為替ヘッジなし・・・目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものをいいます。

上記は、一般社団法人 投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。商品分類および属性区分の内容につきましては、一般社団法人 投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp>）をご参照ください。

委託会社は、受託銀行（後記「(3)ファンドの仕組み 2. ファンドの関係法人 委託会社および本ファンドの関係法人の名称および関係業務 b. 受託会社」に定義します。以下同じ。）と合意のうえ、金2,000億円を限度として信託金を追加することができます。なお、委託会社は、受託銀行と合意のうえ、上記の限度額を変更することができます。

G S アジア・ハイ・イールド債券ファンドには、以下の3ファンドがあります。

G S アジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コース （「本ファンド」または「アジア通貨コース」といいます。）	主に日本を除くアジアの米ドル建てハイ・イールド債券に投資し、米ドル建て資産に対して原則として対アジア通貨で為替取引を活用することにより、アジア通貨への投資効果を追求します。
G S アジア・ハイ・イールド債券ファンド 米ドルコース （「米ドルコース」といいます。）	主に日本を除くアジアの米ドル建てハイ・イールド債券に投資し、米ドル建て資産に対して原則として対円での為替ヘッジは行いません。
G S アジア・ハイ・イールド債券ファンド 円コース （「円コース」といいます。）	主に日本を除くアジアの米ドル建てハイ・イールド債券に投資し、米ドル建て資産に対して原則として対円で為替ヘッジを行います。

（注）本書はアジア通貨コースについてのみ記載しています。

< ファンドのポイント >

1. 本ファンドは、投資信託証券を通じて、主として日本を除くアジアの企業が発行する米ドル建てハイ・イールド債券に投資します。

組入れ投資信託証券では、米ドル建て以外の資産に投資することがあります。米ドル建て以外の外貨建資産に投資を行った場合は、原則として対米ドルで為替ヘッジを行います。

ア ジ ア 通 貨 コース	米ドル建て資産に対して原則として対アジア通貨で為替取引を活用することにより、アジア通貨への投資効果を追求します。本ファンドにおいて、アジア通貨とは、アジア地域の中で、通貨の流動性、金利水準、経済状況等を勘案して、委託会社が選択したインド・ルピー、インドネシア・ルピアおよび韓国ウォンのことをいい、原則として3通貨に均等配分します。
------------------	---

2. 原則として、毎月25日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に分配を行います。

運用状況によっては、分配の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

（２）【ファンドの沿革】

2011年10月11日：本ファンドの信託設定日および運用開始日

2020年 1月25日：信託期間の延長（2026年10月23日まで）

（３）【ファンドの仕組み】

１．ファンドの仕組み

本ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。運用にあたっては、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが運用する投資信託証券のうち、本ファンドの運用戦略を行うために必要と認められる下記の投資信託証券を主要投資対象とします。



*利益はすべて投資家である受益者に帰属します。

販売会社によってはアジア通貨コース、米ドルコースおよび円コースとの間でのスイッチングが可能です。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

委託会社が属するゴールドマン・サックスの資産運用部門を「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント」といいます。

各投資信託証券（以下、総称して「組入れファンド」、「組入れ投資信託証券」または「指定投資信託証券」ということがあります。）への投資比率は、資金動向および各投資信託証券の収益性等を勘案して決定するものとします。原則として「アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト」または「ゴールドマン・サックス・アジア・ハイ・イールド・ボンド・ポートフォリオ」への組入比率を高位に保つものの、各投資信託証券への投資比率には制限を設けません。市況動向や資金動向その他の要因等によっては、上記の投資信託証券の一部に投資を行わない場合があります。

投資対象となる投資信託証券は見直されることがあります。この際、上記の投資信託証券が除外されたり、新たな投資信託証券が追加される場合もあります。

２．ファンドの関係法人

委託会社および本ファンドの関係法人の名称および関係業務

ａ．委託会社（ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社）

本ファンドの委託者として、ファンドに集まったお金（信託財産といいます。）の運用指図等を行います。本ファンドの運営の仕組みは下記の「ファンド関係法人」の図に示すとおりです。なお、委託会社は、信託財産の計算その他本ファンドの事務管理に関する業務を第三者に委託することがあります。

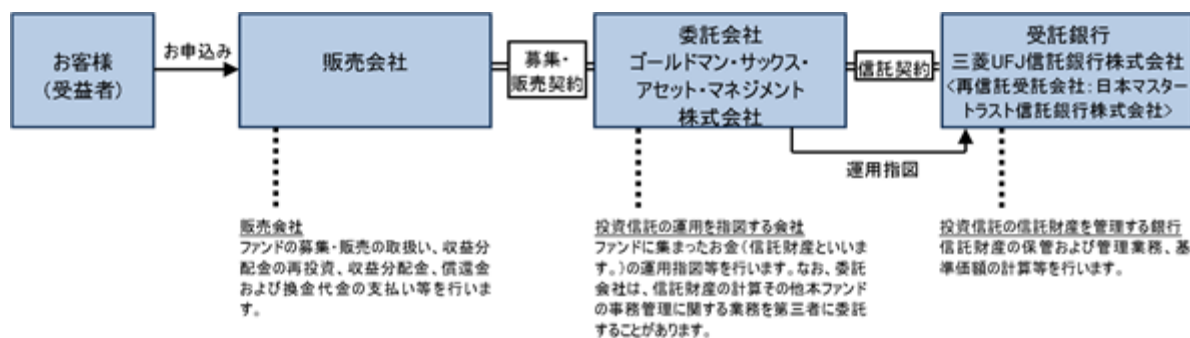
ｂ．受託会社（三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社（以下「受託銀行」といいます。））

本ファンドの受託者として、委託会社との間の信託契約に基づき、信託財産の保管および管理業務、基準価額の計算等を行います。なお、上記業務の一部につき再信託先である日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することができます。

ｃ．販売会社

本ファンドの販売会社として、委託会社との間の証券投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約書（以下「募集・販売契約」といいます。）に基づき、ファンドの募集・販売の取扱い、収益分配金の再投資、収益分配金、償還金および換金代金の支払い等を行います。

ファンド関係法人



<ご参考> ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（GSAM）とは

ゴールドマン・サックスは、1869年（明治2年）創立の世界有数の金融グループのひとつであり、世界の主要都市に拠点を有し、世界中の政府機関・企業・金融機関等に対して、投資銀行業務・証券売買業務・為替商品取引・資産運用業務など、多岐にわたる金融サービスを提供しています。

ゴールドマン・サックスの資産運用部門であるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（GSAM）は、1988年の設立以来、世界各国の投資家に資産運用サービスを提供しており、2022年6月末現在、グループ全体で2兆2,708億米ドル（約310兆円^{*}）の資産を運用しています。

^{*}米ドルの円貨換算は便宜上、2022年6月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝136.68円）により、計算しております。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの東京拠点です。

委託会社等の概況

a．資本金

委託会社の資本金の額は金4億9,000万円です（本書提出日現在）。

b．沿革

- 1996年2月6日 会社設立
- 2002年4月1日 ゴールドマン・サックス・アセット・マネージメント・ジャパン・リミテッドの営業の全部を譲受け、商号をゴールドマン・サックス投信株式会社からゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社に変更

c．大株主の状況

（本書提出日現在）

氏名又は名称	住所	所有株式数 （株）	所有比率 （％）
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングス・エルエルシー	アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク市ウェスト・ストリート200番地	6,400	100

2【投資方針】

（１）【投資方針】

a．基本方針

本ファンドは、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

b．本ファンドの運用方針

主として、日本を除くアジアの投資適格格付未滿に格付けされた米ドル建て高利回り債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資します。当該投資信託は、原則として米ドルとアジア通貨との為替取引を活用することにより、アジア通貨への投資効果を追求します。本ファンドにおいて、アジア通貨とは、インド・ルピー、インドネシア・ルピアおよび韓国ウォンからなる通貨バスケットのことをいいます。

外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。

投資信託証券への投資は、高位に維持することを基本とします。

投資信託証券への投資にあたっては、別に定める投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）に投資を行うことを基本とします。なお、指定投資信託証券は見直されることがあります。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券が指定投資信託証券として指定されたりする場合もあります。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針にしたがった運用ができない場合があります。

<本書で使用するデータについて>（「3 投資リスク（3）参考情報」で用いるデータについては該当ページをご覧ください。）

■債券インデックス等

日本国債：F T S E 世界国債インデックス（日本）

先進国国債：F T S E 世界国債インデックス（除く日本）

エマージング債券（米ドル建て）：J P モルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバーシファイド

欧州ハイ・イールド債券：I C E B o f A メリルリンチ・ヨーロッパ・ハイ・イールド・インデックス（米ドルヘッジ）

米国ハイ・イールド債券：I C E B o f A メリルリンチU S ハイ・イールドマスターIIインデックス

アジア・ハイ・イールド債券：I C E B o f A メリルリンチ・アジア・ダラー・ハイ・イールド・インデックス^{*}

日本株式：T O P I X

米国株式：S & P 5 0 0 種株価指数

エマージング株式：M S C I エマージング・マーケット・インデックス

^{*}アジア・ハイ・イールド債券市場を示す代表的なインデックスですが、本ファンドのベンチマークや参考指標ではありません。

■各通貨の短期金利

円：日本円 1 ヶ月TIBOR

米ドル：米国T-Bill 1 ヶ月

韓国ウォン：韓国インターバンク 1 ヶ月取引金利

インドネシア・ルピア：ジャカルタ・インターバンク 1 ヶ月取引金利

インド・ルピー：NSEインターバンク 1 ヶ月取引金利

c. 本ファンドの特色

アジアのハイ・イールド債券に投資します

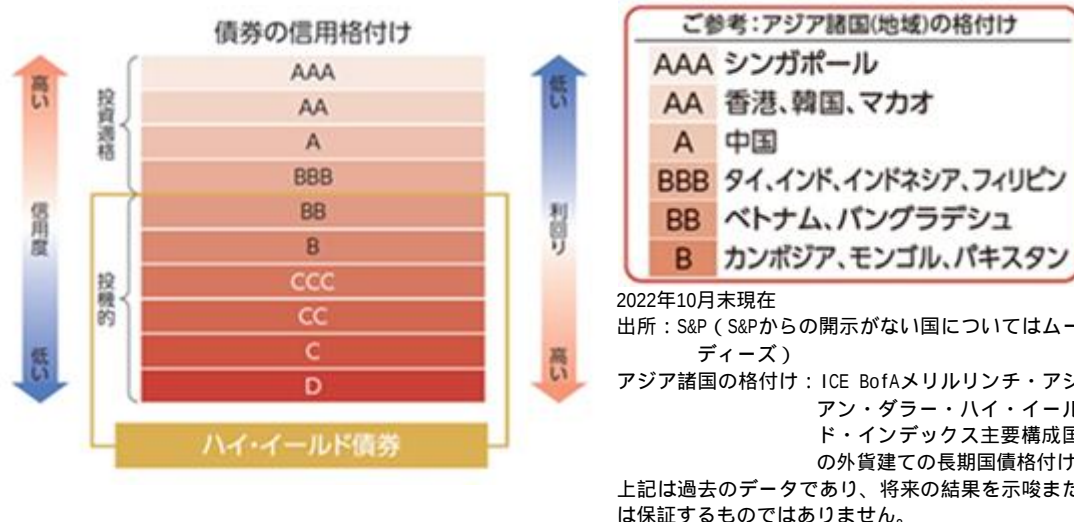
主として日本を除くアジアの企業が発行する米ドル建てハイ・イールド債券に投資することにより、高い金利収入（インカム・ゲイン）と債券元本部分の売買益および評価益（キャピタル・ゲイン）の獲得をめざします。

？ ハイ・イールド債券とは

ハイ・イールド債券とは、BB格（S&P）およびBa格（ムーディーズ）相当以下の格付けを付与された債券のことをいいます。ハイ・イールド債券は、一般的に投資適格社債（S&Pの場合はBBB格、ムーディーズの場合はBaa格以上の格付けを付与された社債）と比較して信用度が低く、債務不履行が生じる可能性（デフォルト・リスク）が高くなります。一方、その見返りとして、国債や投資適格社債などのより高格付けの債券よりも相対的に高い利回りで取引されています。

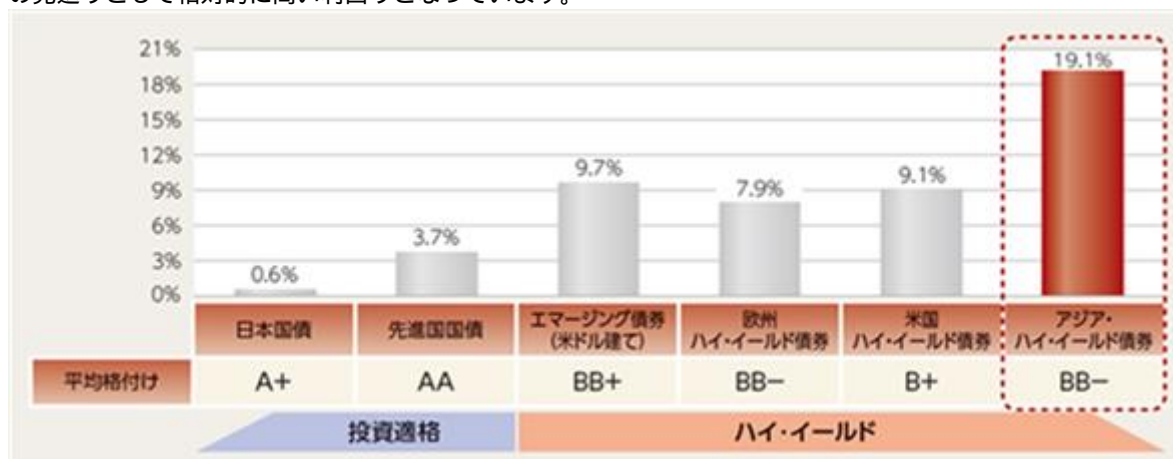
格付けが公表されていない債券の場合は、組入れファンドの投資顧問会社が判断した格付けとなります。

< 投資対象債券の信用格付けの位置づけ >



< 各種債券の利回り水準 >

ハイ・イールド債券の利回りは、国債や投資適格債券などのより高格付けの債券よりも信用度が低いため、その見返りとして相対的に高い利回りとなっています。



2022年10月末現在

出所：F T S E、JPモルガン、ICE

上記は過去のデータであり、将来の結果を示唆または保証するものではありません。

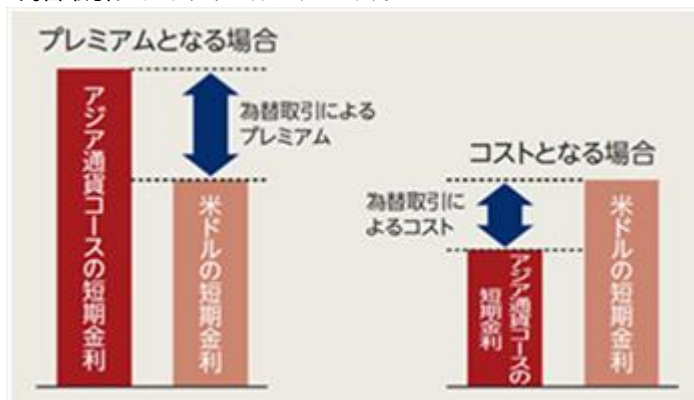
上記は、インデックスの利回りおよび平均格付けであり、本ファンドの実績ではありません。信託報酬等の諸費用は考慮されておりませんのでご注意ください。上記の利回り水準は、将来大きく変動することがあります。

アジアのハイ・イールド債券やアジアの通貨への投資は、社会・経済・政治の不安定要素を多く含むため、価格変動・為替変動が大きく、投資資産が大幅に減少するリスクを伴います。詳しくは後記「3. 投資リスク」をご覧ください。

アジア通貨コースは3通貨に投資します

投資対象である米ドル建てのアジア・ハイ・イールド債券に対し、原則として対アジア通貨（インド・ルピー、インドネシア・ルピア、韓国ウォン）で為替取引を行います。

<為替取引によるプレミアムとコスト>



アジア通貨（インド・ルピー、インドネシア・ルピア、韓国ウォン）の短期金利が、アジア・ハイ・イールド債券の発行通貨（米ドル）の短期金利を上回っている場合、その金利差がプレミアム（金利差相当分の収益）となります。逆の場合には、その金利差がコスト（金利差相当分の費用）となります。

上記の図はあくまでもイメージであり、実際の為替取引によって得られるプレミアムまたはコストの大きさを保証するものではありません。

<ご参考> アジア・ハイ・イールド債券と為替取引の組み合わせ

米ドルよりも高い短期金利の通貨で為替取引を行った場合、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が生じ、アジア・ハイ・イールド債券の利回りに上乗せされることで、より高い利回りが期待できます。反対に、米ドルよりも低い短期金利の通貨で為替取引を行った場合、為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）が生じます。



2022年10月末現在
出所：ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

為替取引によるプレミアム/コスト：各コースの通貨の金利から米ドル金利を差し引いて算出
アジア・ハイ・イールド債券利回り：本ファンドの組入れファンドである「アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト」の最終利回り

「アジア通貨コース」においては、組入れファンドにおいてNDF（次ページ参照）による為替取引を活用するため、これにより得られるプレミアムの水準は、各通貨の短期金利を基に計算した上記のプレミアムの水準を大幅に下回る場合があります。また、市場動向等によっては、コスト（金利差相当分の費用）が生じる場合があることにご注意ください。なお、アジア通貨の1ヵ月NDFインプライド金利（20日移動平均、2022年10月末現在）は、5.5%^{*1}となっています。

各通貨の円に対する為替変動により基準価額が下落するリスクがあることにご注意ください。「アジア通貨コース」は、アジア・ハイ・イールド債券への投資に加えてアジア通貨からの収益を追求するため、その分損失のリスクも増大します。またアジア通貨と米ドルの短期金利差が逆転した場合でも為替取引による運用を継続します。

上記試算の図は、2022年10月末日時点における組入れファンドのポートフォリオの最終利回り^{*2}に、各通貨の短期金利を基に算出した計算上のプレミアム/コストの水準を組み合わせで作成した図です。したがって、本ファンドの実際のデータではなく、あくまでご参考情報として掲載しております。

*1 直近のNDFインプライド金利については委託会社ホームページ掲載の「月次レポート」でご覧いただけます。

*2 最終利回りとは、ポートフォリオに組み入れられているすべての債券が、デフォルト（債務不履行）等することなく償還日ににおいて償還されると仮定して計算された年平均の利回りであり、実際にはかかる利回りを大幅に下回る場合があります。上記は過去のデータであり、実際の数値は市場動向や投資環境等により変動します。また、本ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。信託報酬等の諸費用や、流動性等の市場要因は考慮されておりませんのでご注意ください。

アジアのハイ・イールド債券やアジアの通貨への投資は、社会・経済・政治の不安定要素を多く含むため、価格変動・為替変動が大きく、投資資産が大幅に減少するリスクを伴います。詳しくは後記「3. 投資リスク」をご覧ください。

<各通貨の推移（対円）>



※アジア通貨：韓国ウォン、インド・ルピー、インドネシア・ルピアの均等配分



期間：1998年12月末～2022年10月末(1998年末を100として指数化)

出所：ブルームバーグのデータを基にゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の結果を示唆または保証するものではありません。

<為替取引：ノン・デリバブル・フォワード（NDF）について>

一部の新興国の通貨については、内外の為替取引の自由化が実施されておらず、実際の現地通貨での受渡に制約があるため、ノン・デリバブル・フォワード（NDF）という取引手法を用いて為替取引を行う場合があります。NDFは為替予約取引の一種ですが、実際の現地通貨での受渡しは行われず、米ドル等の主要通貨によって差金決済されます。当該新興国の為替市場における通貨の値動きとNDFの取引価格の値動きは、需給などの市況や規制等により大きくかい離する場合があります。この結果、ファンドの投資成果が為替市場の値動きや各通貨の短期金利の水準から想定されるものと大きくかい離する場合があります。また、需給などの投資環境によっては機動的な売買ができない可能性（流動性リスク）があります。NDFは相対取引となるため、取引相手先の決済不履行リスク（カウンター・パーティー・リスク）が伴います。なお、「アジア通貨コース」においては、組入れる外国投資信託でNDFによる為替取引を活用します。

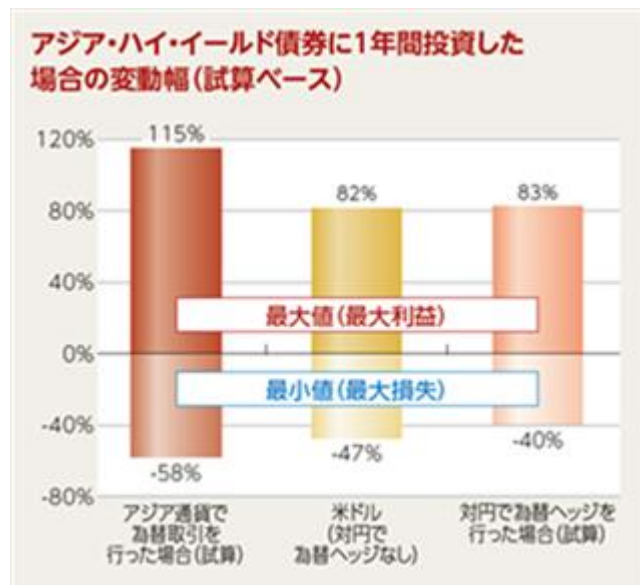
アジアのハイ・イールド債券やアジアの通貨への投資は、社会・経済・政治の不安定要素を多く含むため、価格変動・為替変動が大きく、投資資産が大幅に減少するリスクを伴います。詳しくは後記「3. 投資リスク」をご覧ください。

<アジア・ハイ・イールド債券に投資した場合の変動幅（試算ベース）>

アジア・ハイ・イールド債券に1年間投資した場合の変動幅（試算ベース）（上図）では、過去において各月から1年間、それぞれのコースからアジア・ハイ・イールド債券に投資したと仮定した場合の最大値（最大利益）と最小値（最大損失）を示しています。

また、各通貨コースと他資産のリスクの大きさの比較（試算ベース）（下図）では、それぞれのコースからアジア・ハイ・イールド債券に投資したと仮定した場合と他資産のリスク水準を比較しています。

「アジア通貨コース」についてはアジア通貨のリスクなどが追加されるため、相対的に見て価格変動は大きく なっています。



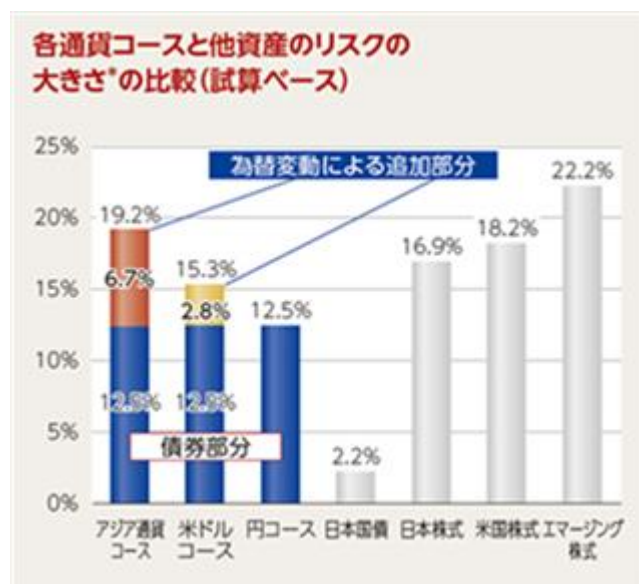
左記は、アジア・ハイ・イールド債券に毎月末から1年間投資したと仮定した場合のリターンにより算出しています。

たとえば、10,000円を投資した場合、最大損失として1年後にそれぞれ4,200円（-58%）、5,300円（-47%）、6,000円（-40%）になる期間があったことを示しています。

当該リターンはICE BofAメリルリンチ・アジア・달러・ハイ・イールド・インデックス、各通貨の為替レート（対米ドル）および各通貨の短期金利を基に計算したものであり、実際の投資結果とは異なります。「アジア通貨コース」においては、組入れファンドにおいてNDFによる為替取引を活用するため、これにより得られるプレミアムの水準は、各通貨の短期金利を基に計算したプレミアムの水準を大幅に下回る場合があります。

期間：2002年6月末～2022年10月末

出所：ICE、ブルームバーグ



* リスクの大きさは円ベースの月次リターンより算出した年率標準偏差を指しています。

標準偏差とは、全体の結果が平均のところにまとまっているか散らばっているかを表す指標で、ファンドのリターンの標準偏差が大きければ大きい程、日々のリターンは平均から散らばったものとなり、それだけリスクの大きいファンドということになります。

期間：2002年6月末～2022年10月末

出所：JPモルガン、ICE、ブルームバーグ

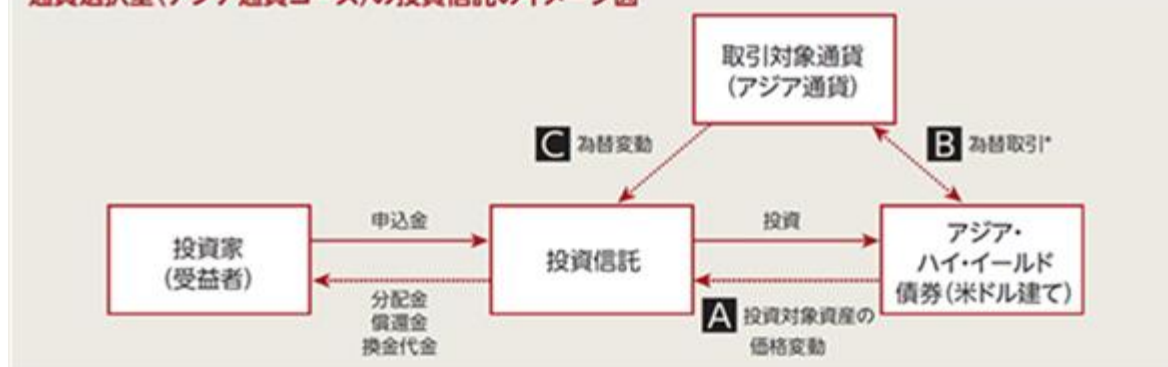
上記は過去のデータであり、実際の数値は市場動向や投資環境等により変動します。また、本ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではなく、上図の最小値（最大損失）を超えて下落する場合があります。信託報酬等の諸費用や、流動性等の市場要因は考慮されておりませんのでご注意ください。

アジアのハイ・イールド債券やアジアの通貨への投資は、社会・経済・政治の不安定要素を多く含むため、価格変動・為替変動が大きく、投資資産が大幅に減少するリスクを伴います。詳しくは後記「3. 投資リスク」をご覧ください。

<通貨選択型ファンドの収益イメージ>

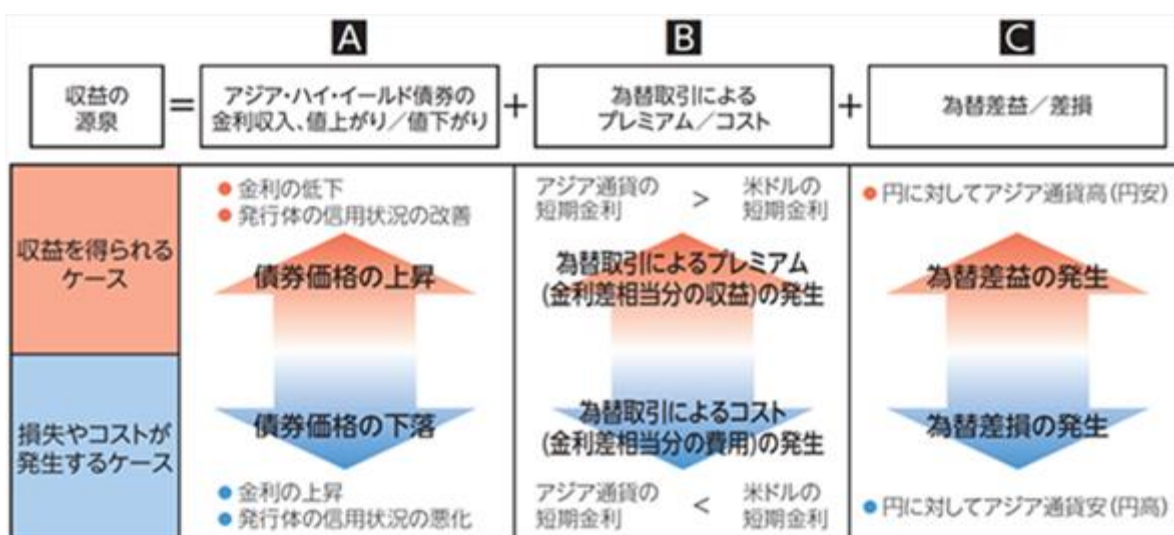
通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるように設計された投資信託です。

通貨選択型(アジア通貨コース)の投資信託のイメージ図



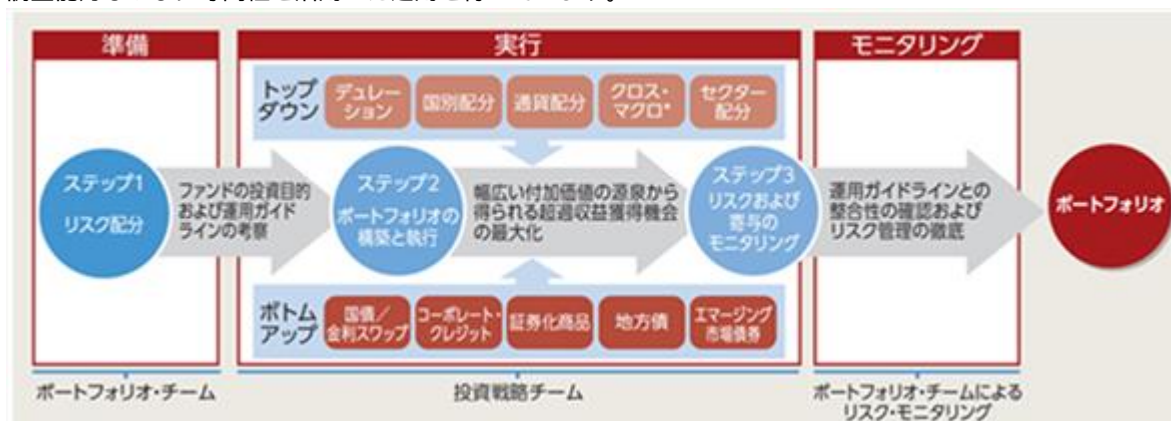
*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。
これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



< ファンドの運用 >

本ファンドが主として組入れる投資信託証券の運用は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのグローバル債券・通貨運用グループによって行われます。同グループは世界各地に運用拠点を展開し、幅広い調査能力ならびに専門性を活用した運用を行っています。



*「クロス・マクロ」とは、トップダウンのマクロ経済分析において、各資産クラス間から生じる非効率性を捉えることで収益を上げる戦略をいいます。

本運用プロセスがその目的を達成できる保証はありません。また本運用プロセスは変更される場合があります。

（２）【投資対象】

（a）投資の対象とする資産の種類（信託約款第16条）

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- １．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託法第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ．有価証券
 - ロ．金銭債権
 - ハ．約束手形（金融商品取引法第２条第１項第15号に掲げるものを除きます。）
- ２．次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ．為替手形

（b）投資対象有価証券（信託約款第17条第１項）

委託会社は、信託金を、主として指定投資信託証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- １．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等（社振法第66条第１号に規定する短期社債、保険業法第61条の10第１項に規定する短期社債、資産の流動化に関する法律第２条第８項に規定する特定短期社債、信用金庫法第54条の４第１項に規定する短期債、農林中央金庫法第62条の２第１項に規定する短期農林債および一般振替機関の監督に関する命令第38条第２項に規定する短期外債をいいます。）
- ２．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券または証書の性質を有するもの
- ３．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- ４．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りします。）

（c）有価証券以外の投資対象（信託約款第17条第２項および第３項）

委託会社は、信託金を、上記(b)に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- １．預金
- ２．指定金銭信託（金融商品取引法第２条第１項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- ３．コール・ローン
- ４．手形割引市場において売買される手形

上記(b)の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記１．ないし４．に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（d）その他の取引の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産についての為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

なお、委託会社は、信託財産の効率的な運用および運用の安定性をはかるため、信託財産における特定の資産につき、為替予約取引、資金の借入れその他の取引により信託財産の負担する債務を担保するため、日本法または外国法に基づく担保権の設定（現金を預託して相殺権を与えることを含みます。）の指図をすることができ、また、これに伴い適用法上当該担保権の効力を発生させ、または対抗要件を具備するために必要となる契約の締結、登記、登録、引渡しその他一切の行為を行うことの指図をすることができます。

担保権の設定に要する費用は、受益者の負担とし、信託財産中より支弁します。

(e) 投資対象とする投資信託証券（指定投資信託証券）

本ファンドは、以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。なお、指定投資信託証券は見直されることがあります。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券が指定投資信託証券として指定される場合もあります。

ファンド名	ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニット・トラスト - アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト
ファンド形態	ケイマン籍外国投資信託（米ドル建て）
投資目的	主に日本を除くアジアの企業またはアジア各国の成長により収益が期待される企業により発行された米ドル建ての投資適格格付未滿に格付けされた債券に投資することにより、収入（インカム）と資産価値増加（キャピタル・ゲイン）からなる長期的なトータル・リターンを獲得することを目的とします。
運用の基本方針等	主に日本を除くアジアの企業またはアジア各国の成長により収益が期待される企業により発行された米ドル建ての投資適格格付未滿に格付けされた債券に投資します。 米ドル建て以外の資産については、原則として対米ドルで為替ヘッジを行うものとしします。 アジア通貨クラスについては組入資産につき米ドルとアジア通貨（インド・ルピー、インドネシア・ルピア、韓国ウォン）との為替取引を活用することによりアジア通貨への投資効果を追求します。
主な投資制限	空売りされている証券の時価総額はファンドの純資産総額を超えないものとします。 純資産総額の10%を超える借入は行わないものとします。 流動性に欠ける資産への投資は、純資産総額の15%以内とします。 通常の状態において、日本において有価証券に属する証券に資産総額の50%以上を投資します。 他ファンドへの投資は、純資産総額の5%以内とします。 単一の発行体の証券への投資割合は、純資産総額の10%を超えないものとします。 通常、米ドル以外の通貨への投資割合は、純資産総額の10%を超えないものとします。
運用報酬等	運 用 報 酬：なし 申 込 手 数 料：なし 解 約 手 数 料：なし 信託財産留保額：なし その他の諸費用：受託報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬、受益者サービス報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、株式等の売買委託手数料等取引に要する費用、信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。
投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー
副投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（シンガポール）ピーティーイー・リミテッド ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル 副投資顧問会社は、今後、追加・変更される場合があります。

（注）上記投資信託証券については、日々の流入額が純資産総額の一定割合を超える場合、純資産価格の調整が行われる場合があります。これは、資金の流入から受ける取引コスト等が当該投資信託証券に与えるインパクトを軽減することを意図していますが、算出日における資金の流入の動向が、純資産価格に影響を与えることとなります。

上記は本書提出日現在の概要であり、今後、当該項目の内容が変更される場合があります。

ファンド名	ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. - ゴールドマン・サックス・アジア・ハイ・イールド・ボンド・ポートフォリオ
ファンド形態	ルクセンブルク籍外国投資証券（米ドル建て）
投資目的	主に日本を除くアジアの企業またはアジア各国の成長により収益が期待される企業により発行された米ドル建て投資適格格付未滿に格付けされた債券に投資することにより、収入（インカム）と資産価値増加（キャピタル・ゲイン）からなる長期的なトータル・リターンを獲得することを目的とします。ただし、運用にあたっては、運用者が定めるE S G（環境・社会・ガバナンス）基準に基づく環境的・社会的な特性を推進することをめざします。
運用の基本方針等	主に日本を除くアジアの企業またはアジア各国の成長により収益が期待される企業により発行された米ドル建て投資適格格付未滿に格付けされた債券に投資します。米ドル建て以外の資産については、原則として対米ドルで為替ヘッジを行うものとします。 アジア通貨クラスについては組入資産につき米ドルとアジア通貨（インド・ルピー、インドネシア・ルピア、韓国ウォン）との為替取引を活用することによりアジア通貨への投資効果を追求します。
主な投資制限	単一の発行体の証券への投資割合は、ルクセンブルクの規制に従い、原則として信託財産の純資産総額の10%を超えないものとします。 信託財産の純資産総額の10%を超える借入は行わないものとします。
運用報酬等	運用報酬： なし 申込手数料： なし 解約手数料： なし 信託財産留保額： なし その他の費用： 管理報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、株式等の売買委託手数料等取引に要する費用、信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。
管理会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・ファンド・サービシズ・リミテッド
投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル
副投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（シンガポール）ピーティーイー・リミテッド ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー 副投資顧問会社は、今後、追加・変更される場合があります。

（注）上記投資信託証券については、日々の流出入額が純資産総額の一定割合を超える場合、純資産価格の調整が行われる場合があります。これは、資金の流出入から受ける取引コスト等が当該投資信託証券に与えるインパクトを軽減することを意図していますが、算出日における資金の流出入の動向が、純資産価格に影響を与えることとなります。

上記は本書提出日現在の概要であり、今後、当該項目の内容が変更される場合があります。

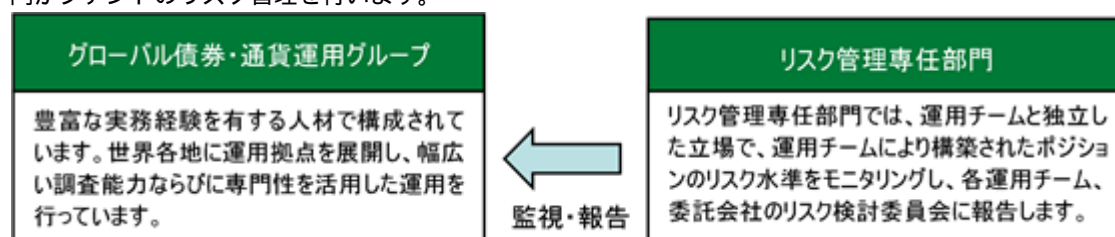
ファンド名	ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー - ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国投資証券（米ドル建て）
投資目的	元本と流動性を確保しつつ、最大限の収益を得ることを目標として運用を行います。
運用の基本方針等	主に米ドル建ての短期の市場性を有する金融市場証券に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ最大限の収益を追求します。 高格付証券として適格であり、また格付けのない場合には高格付証券と同等の信用度を有すると投資顧問会社がみなす広範な証券に投資します。 原則として購入時において満期まで397日以下の証券、証書および債務に投資し、60日以下の加重平均満期と、120日以下の加重平均残存年限を維持します。
主な投資対象	米ドル建ての短期の市場性を有する金融市場証券
主な投資制限	通常の状態において、日本において有価証券に属する証券に純資産総額の50%以上を投資します。 他の投資信託証券への投資は行いません。
運用報酬等	運用報酬：なし 申込手数料：なし 解約手数料：なし（一定の条件下を除く） 信託財産留保額：なし その他の諸費用：管理事務代行、保管、登録・名義書換事務代行、受益者サービス等に係る報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、名義書換事務代行費用、印刷費用等）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、株式等の売買委託手数料等取引に要する費用、信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。
管理会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・ファンド・サービシズ・リミテッド
投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル
副投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー

上記は本書提出日現在の概要であり、今後、当該項目の内容が変更される場合があります。

（３）【運用体制】

ａ．組織

本ファンドが主として組入れる投資信託証券の運用は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのグローバル債券・通貨運用グループによって行われます。同グループは世界各地に運用拠点を展開し、幅広い調査能力ならびに専門性を活用した運用を行っています。また、運用チームとは独立したリスク管理専任部門がファンドのリスク管理を行います。



（注１）本書上、リスク管理とは、ポートフォリオのリスクを監視し、一定水準に管理することをめざしたものであり、必ずしもリスクの低減を目的とするものではありません。

（注２）上記運用体制およびリスク管理体制は、将来変更される場合があります。

b. 運用体制に関する社内規則等

ファンドの運用に関する社内規則として、ポートフォリオ・マネジャーが遵守すべき服務規程のほか、有価証券などの売買執行基準およびその遵守手続きなどに関して取扱い基準を設けることにより、法令遵守の徹底を図るとともに、利益相反となる取引、インサイダー取引等を防止し、かつ売買執行においては最良執行に努めています（運用の全部または一部を海外に外部委託する場合には、現地の法令および諸規則にもあわせて従うこととなります。）。

c. 内部管理体制

委託会社は、リスク検討委員会を設置しています。リスク検討委員会は、委託会社の関係各部署の代表から構成されており、リスク管理専任部門からの報告事項等（ファンドの運営に大きな影響を与えると判断された流動性に関する事項を含みます。）に対して、必要な報告聴取、調査、検討、決定等を月次で行います。また、リスク検討委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定めファンドの組入資産モニタリングを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。

（４）【分配方針】

2012年1月25日以降、毎月決算を行い、毎決算時（毎月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。ただし、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。



上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。

分配金額は、委託会社が収益分配方針に従って基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、基準価額水準、市場動向等によっては分配を行わないこともあります。また、基準価額が当初元本を下回る場合においても分配を行うことがあります。

収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、元本部分と同様に運用の基本方針に基づき運用を行います。

- 1 一般コースの場合、収益分配金は、原則として計算期間終了日から起算して5営業日までに販売会社を通じて支払を開始します。
- 2 自動けいぞく投資コースの場合、収益分配金は、税金を差引いた後各計算期間終了日の基準価額により無手数料で全額自動的に再投資されます。
- 3 自動けいぞく投資コースの場合で、収益分配金の受取りをご希望の方は、販売会社によっては再投資を中止することを申出ることが出来ます。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

< 収益分配金に関わる留意点 >

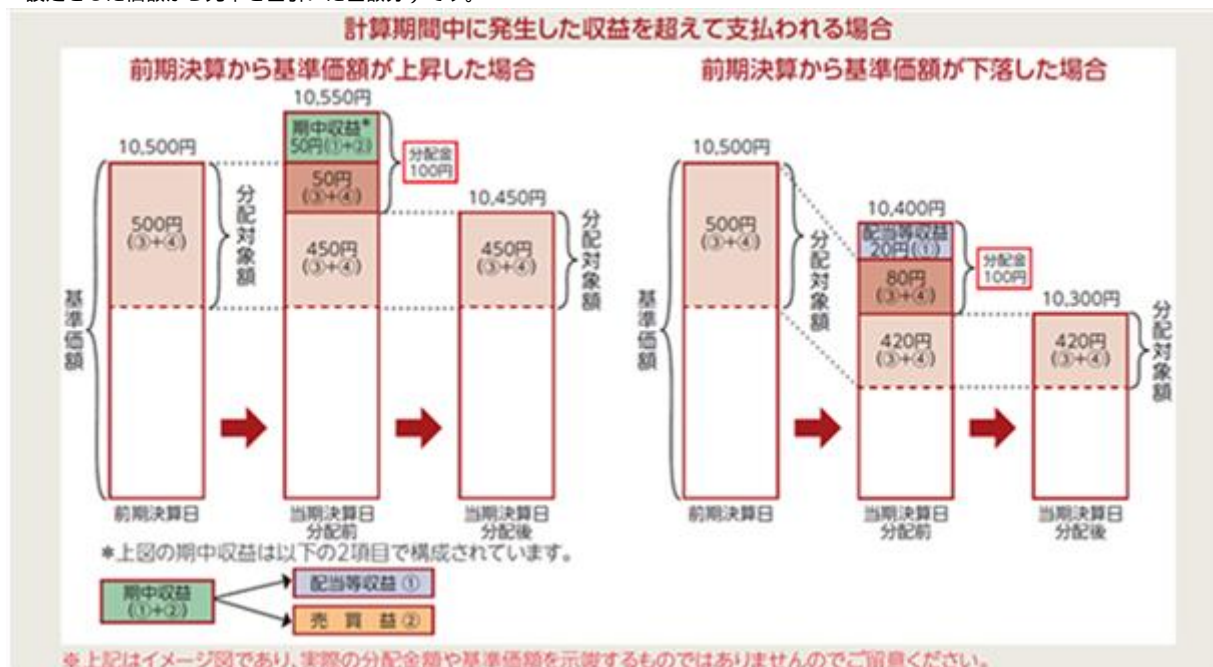
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額とは、経費控除後の配当等収益 経費控除後の評価益を含む売買益 分配準備積立金（当該計算期間よりも前に累積した配当等収益および売買益） 収益調整金（信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分）です。



上記のとおり、分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合がありますので、元本の保全性を追求される投資家の場合には、市場の変動等に伴う組入資産の価値の減少だけでなく、収益分配金の支払いによる元本の払戻しにより、本ファンドの基準価額が減価することに十分ご注意ください。

投資家のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の基準価額の値上がりや、支払われた分配金額より小さかった場合も実質的に元本の一部払戻しに相当することがあります。元本の一部払戻しに該当する部分は、元本払戻金（特別分配金）として非課税の扱いになります。



普通分配金：個別元本（投資家のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資家の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、後記「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご覧ください。

数年間にわたって基準価額が下落した場合

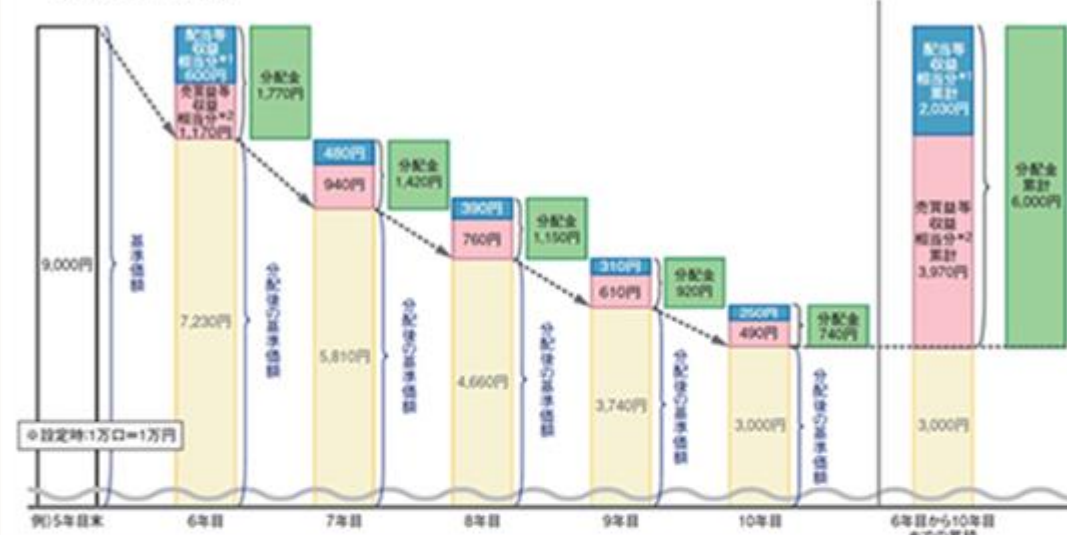
① 配当等収益を中心に分配する場合 ※年間のリターン(税引前分配金込み)が0%と仮定

※この図では、年間のリターンを一定と仮定していますが、実際の基準価額は市場変動等により大きく下落することがあり、また、分配金額等は変動しますのでご注意ください。



② 配当等収益に加え、売買益(評価益を含みます。)も分配する場合 ※年間のリターン(税引前分配金込み)が0%と仮定

※この図では、年間のリターンを一定と仮定していますが、実際の基準価額は市場変動等により大きく下落することがあり、また、分配金額等は変動しますのでご注意ください。



- ※1 配当等収益相当分には分配準備積立金(当該期間よりも前に累積した配当等収益および売買益等収益)のうち配当等収益を含む場合があります。
- ※2 売買益等収益相当分には分配準備積立金(当該期間よりも前に累積した配当等収益および売買益等収益)のうち売買益等収益および収益調整金を含む場合があります。

(注)上図はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

収益分配金は必ずしも当該計算期間中に得た収益から支払われるわけではなく、決算時点での基準価額の水準に関わらず過去に得た収益から支払われる場合があります。

上図は①配当等収益を中心に分配した場合と、②配当等収益に加えて売買益等収益も分配した場合の基準価額の変動を示しています。例えば、①の6年目では1年間に得た配当等収益を中心に分配を支払ったため、その分基準価額が下落しています。一方、②では配当等収益に加えて売買益等収益相当分を分配したため、①と比較するとその分さらに基準価額が下落しています。②の6年目から10年目までに受益者は合計で6,000円分(配当等収益相当分2,030円+売買益等収益相当分3,970円)の収益分配を受領し、基準価額は3,000円になっています。上図の例において、売買益等収益を支払わなかった場合、累計でみた分配後基準価額は6,970円(3,000円+3,970円)になります。

配当等収益相当分
売買益等収益相当分
分配金
分配後の基準価額

（５）【投資制限】

本ファンドは、以下の投資制限に従います。

（a）信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

- １．投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ２．株式（指定投資信託証券を除きます。）への直接投資は行いません。
- ３．外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- ４．指定投資信託証券および短期金融商品等以外の有価証券への直接投資は行いません。
- ５．有価証券先物取引等の派生商品取引の指図ならびに有価証券の貸付、空売りおよび借入れの指図は行いません。
- ６．デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則に従い、委託会社が定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ７．組入投資信託証券が、一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、同一銘柄の投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ８．一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

（b）信託約款上のその他の投資制限**１．特別の場合の外貨建有価証券への投資制限（信託約款第22条）**

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

２．外国為替予約の運用指図（信託約款第23条）

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

３．資金の借入れ（信託約款第30条）

委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、信託財産において一部解約金の支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができ、また法令上可能な限度において融資枠の設定を受けることを指図することができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までが5営業日以内である場合のその期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。

収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は信託財産中より支弁します。

（c）その他の法令上の投資制限

委託会社は、運用財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券又はオプションを表示する証券若しくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）を行い、又は継続することを内容とした運用を行うことを受託銀行に指示することはできません（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）。

3【投資リスク】

(1) 投資リスク

本ファンドへの投資には、一定のリスクを伴います。本ファンドの購入申込者は、以下に掲げる本ファンドに関するリスクおよび留意点を十分にご検討いただく必要があります。なお、以下に記載するリスクおよび留意点は、本ファンドに関わるすべてのリスクおよび留意点を完全に網羅しないことにつき、ご注意ください。

(a) 元本変動リスク

投資信託は預貯金と異なります。本ファンド（文脈により、組入れる投資信託証券を含む場合、あるいはこれらのみを指す場合があります。）は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。主なリスクとして以下のものが挙げられます。

1．カンントリー・リスク

新興国市場への投資には、先進国の市場への投資と比較して、カンントリー・リスクの中でも特に次のような留意点があります。例えば、財産の収用・国有化等のリスクや社会・政治・経済の不安定要素がより大きいこと、市場規模が小さく取引高が小さいことから流動性が低く、流動性の高い場合に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があること、為替レートやその他現地通貨の交換に要するコストの変動が激しいこと、取引の決済制度上の問題、海外との資金決済上の問題等が挙げられます。その他にも、会計基準の違いから現地の企業に関する十分な情報が得られない、あるいは、一般に金融商品市場における規制がより緩やかである、といった問題もあります。

新興国市場への投資にあたっては、長期での投資が可能な余裕資金の範囲で投資を行うことが肝要です。

2．債券の価格変動リスク・信用リスク

債券の市場価格は、金利が上昇すると下落し、金利が低下すると上昇します。金利の変動による債券価格の変化の度合い（リスク）は、債券の満期までの期間が長ければ長いほど、大きくなる傾向があります。

債券への投資に際しては、債券発行体の倒産等の理由で、利息や元金の支払いがなされない、もしくは滞ること等（これを債務不履行といいます。）の信用リスクを伴います。一般に、発行体の信用度は第三者機関による格付けで表されますが、格付けが低いほど債務不履行の可能性が高いことを意味します。発行体の債務不履行が生じた場合、債券価格は大きく下落する傾向があるほか、投資した資金を回収できないことがあります。一般に、ハイ・イールド債券は投資適格債券と比較して、債券発行体の業績や財務内容などの変化（格付けの変更や市場での評判等を含みます。）により、債券価格が大きく変動することがあります。特に信用状況が大きく悪化するような場合では、短期間で債券価格が大きく下落することがあり、本ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ハイ・イールド債券は投資適格債券と比較して、債務不履行が生じる可能性が高いと考えられます。

3．為替変動リスク

本ファンドへの投資には、アジア・ハイ・イールド債券の投資リスクに加えてアジア通貨の為替変動リスクが伴います。

アジア通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元金を割り込むことによる損失を被ることがあります。アジア通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

本ファンドが実質的な主要投資対象とするアジア・ハイ・イールド債券の価格とアジア通貨クラスにおける通貨の為替レートは、市場環境によっては同時に変動する場合があります。その際には、アジア・ハイ・イールド債券の価格と為替レートが同時に下落し、本ファンドの基準価額がより大幅に下落する可能性があります。市場の混乱や急激な変動、経済危機等により、市場参加者がリスク回避傾向を強めた場合等において、このような状況が生じる場合があります。

なお、アジア通貨の短期金利が米ドルよりも低い場合、金利差相当分が為替取引に伴うコストとして発生し、本ファンドの運用成果にマイナスの影響を及ぼす場合があることにご留意ください。また、かかるコストは、NDFを用いて為替取引を行う場合、需給や規制等の影響により、金利差から想定される水準よりも大きくなる場合があります。

4．流動性リスク

市場規模や取引量が少ない場合、組入銘柄を売却する際に市場実勢から期待される価格で売却できず、不測の損失を被るリスクがあります。このような場合、本ファンドの基準価額が大きく下落する可能性や換金に対応するために十分な資金を準備できないことにより換金のお申込みを制限することがあります。

5．取引先に関するリスク

有価証券の貸付、為替取引、スワップ取引、先物取引、余資運用等において、相手先の決済不履行リスクや信用リスクが伴います。

6．デリバティブ取引に関するリスク

本ファンドは債券関連のデリバティブに投資することがあります。デリバティブの運用には、他の運用手法に比べてより大きく価格が変動する可能性、流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等さまざまなリスクが伴います。これらの運用手法は、ヘッジ目的のみならず、投資収益を上げる目的でも用いられることがあります。実際の価格変動が委託会社および組入れファンドの投資顧問会社の見通しと異なった場合に本ファンドが損失を被るリスクを伴います。また、これらデリバティブを債券に組み込んだ仕組債に投資する場合には、当該債券の発行体の信用リスクも伴います。

7．市場の閉鎖等に伴うリスク

金融商品市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化もしくは政策の変更等の諸事情により閉鎖されることがあります。これにより本ファンドの運用が影響を被り、基準価額の下落につながる可能性があります。

(b) 投資成果の希薄化に関わる留意点

本ファンドが主要投資対象とする投資信託証券においては、為替取引を行うアジア通貨クラスの運用上の理由により、各クラス共通で行われるアジア・ハイ・イールド債券の運用において現金等を比較的高い比率で保有する予定です。そのため、かかる現金等の保有は、現金等の保有比率がより低い場合に比べて、本ファンド全体の投資成果が希薄化する可能性がありますのでご注意ください。

(c) 流動性リスクに関わる留意点

大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢より大幅に安い価格で売却せざるを得ないことや取引量が限られてしまうことがあります。これらは、基準価額が下落する要因となり、換金のお申込みを制限する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性もあります。なお、解約資金を手当てするため、資金借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産から支払われます。

(d) 資産規模に関わる留意点

本ファンドの資産規模によっては、本書で説明するような投資が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。

(e) 基準価額に関わる留意点

ファンド・オブ・ファンズの基準価額は、主として組入れる投資信託証券の純資産価格および外貨建投資信託証券に投資する場合は為替レートの影響を反映します。したがって、ファンド・オブ・ファンズの基準価額は必ずしも投資対象市場の動向のみを直接に反映するものではなく、組入れ投資信託証券における運用の結果を反映します。また、ファンド・オブ・ファンズの基準価額は、組入れ投資信託証券が採用する組入資産の評価時点の市場価格を間接的に反映するため、基準価額が計算される時点での直近の投資対象市場の動向とは、異なる動きをすることがあります。

(f) 繰上償還に関わる留意点

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合等には、受託銀行と合意のうえ、必要な手続を経て、この信託を終了させることができます。また、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、または正当な理由があるときは、受託銀行と合意のうえ、必要な手続を経て、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

また、委託会社は、本ファンドが主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合には、受託銀行と合意のうえ、必要な手続を経て、信託契約を解約し、信託を終了させます。

繰上償還された場合には、申込手数料は返還されません。

(g) 外国口座税務コンプライアンス法（FATCA）に関わる留意点

2014年6月30日より後に行われる米国源泉の利子または配当（および同様の支払い）の本ファンドに対する支払いおよび2016年12月31日より後に行われる米国源泉の利子もしくは配当を生じうる財産の売却その他の処分による総受取額の本ファンドに対する一定の支払いは、30%の源泉徴収税の対象となります。ただし、本ファンドが米国内国歳入庁（以下「IRS」といいます。）との間で源泉徴収契約を締結すること、本ファンドが一定の受益者から一定の情報を取得すること、本ファンドがかかる情報のうち一定の情報をIRSに開示すること等の要件が満たされる場合には、源泉徴収税の対象とはなりません。本ファンドがかかる源泉徴収税の対象とならない保証はありません。受益者は、この源泉徴収税について考えられる影響についてご自身の税務顧問にご相談ください。

< 外国口座税務コンプライアンス法（FATCA）について >

外国口座税務コンプライアンス法（Foreign Account Tax Compliance Act）（以下「FATCA」といいます。）として知られる米国の源泉徴収規定により、外国金融機関またはその他の外国事業体に対する（i）2014年6月30日より後に行われる、定額または確定可能額の米国源泉の所得の1年に一度または定期的な一定の支払い、（ii）2016年12月31日より後に行われる、米国源泉の利子または配当を生じうる財産の売却その他の処分による総受取額に帰せられる一定の支払い、および（iii）2016年12月31日より後に行われる、外国金融機関による一定の支払い（またはその一部）は、本ファンドがFATCAにおける各種報告要件を充足しない限り、30%の源泉徴収税の対象となります。米国は、日本の金融機関によるFATCAの実施に関して、日本政府との間で政府間協定（以下「日米政府間協定」といいます。）を締結しています。FATCAおよび日米政府間協定の下で、本ファンドは、この目的上、「外国金融機関」として扱われることが予想されます。本ファンドは、外国金融機関として、FATCAを遵守するには、IRSに登録して、IRSとの間で、特に以下の要件を本ファンドに義務付ける内容の契約（以下「FFI契約」といいます。）を締結する必要があります。

1. 受益者が「特定米国人」（すなわち、免税事業体および一定のその他の者を除く米国連邦所得税法上の米国人）および（一定の場合）特定米国人により所有される非米国人（以下「米国所有外国事業体」といいます。）に該当するか否かを判断するために、一定の受益者に関する情報を取得し、確認すること
2. FATCAを遵守していない受益者の情報（まとめて）、特定米国人の情報および米国所有外国事業体の情報を1年に一度IRSに報告すること
3. 特定米国人、米国所有外国事業体またはFATCAを遵守していない外国金融機関であって、本ファンドから報告義務のある額の支払いを受ける既存の口座保有者からの同意の取得を試み、一定の当該保有者の口座情報をIRSに報告すること、新規口座については、かかる同意の取得を口座開設の条件とすること

本ファンドがFFI契約を締結してこれを遵守することができる保証はなく、本ファンドがこの30%の源泉徴収税を免除される保証もありません。

各受益者は、本ファンドへの投資により、当該受益者の税務上の居住国・地域の税務当局が、本ファンドから、直接または間接的かを問わず、条約、政府間協定等の規定に従い、当該受益者に関する情報の提供を受ける可能性があることをご認識ください。これに関し、本ファンドが特定米国人および米国所有外国事業体である受益者に関する情報を1年に一度報告する義務に加えて、IRSは、日米租税条約に基づき、FATCAを遵守していない受益者に関する情報を日本の財務大臣に請求することができます。

受益者は、この源泉徴収税について考えられる影響についてご自身の税務顧問にご相談ください。

(h) 法令・税制・会計等の変更可能性に関わる留意点

法令・税制・会計等は変更される可能性があります。

(i) その他の留意点

収益分配金、一部解約金、償還金の支払いはすべて販売会社を通じて行われます。それぞれの場合においてその金額が販売会社に対して支払われた後は、委託会社は受益者への支払いについての責任を負いません。

委託会社は、販売会社とは別法人であり、委託会社は設定・運用について、販売会社は販売（お買付代金の預り等を含みます。）について、それぞれ責任を有し、互いに他について責任を有しません。

(2) 投資リスクに対する管理体制

運用チームとは独立したリスク管理専任部門がファンドのリスク管理を行います。リスク管理専任部門では、運用チームとは独立した立場で、運用チームにより構築されたポジションのリスク水準をモニタリングし、各運用チーム、委託会社のリスク検討委員会に報告します。

リスク検討委員会は、委託会社の関係各部署の代表から構成されており、リスク管理専任部門からの報告事項等（ファンドの運営に大きな影響を与えると判断された流動性に関する事項を含みます。）に対して、必要な報告聴取、調査、検討、決定等を月次で行います。また、リスク検討委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定めファンドの組入資産モニタリングを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。

（注1）本書上、リスク管理とは、ポートフォリオのリスクを監視し、一定水準に管理することをめざしたものであり、必ずしもリスクの低減を目的とするものではありません。

（注2）上記リスク管理体制は、将来変更される場合があります。

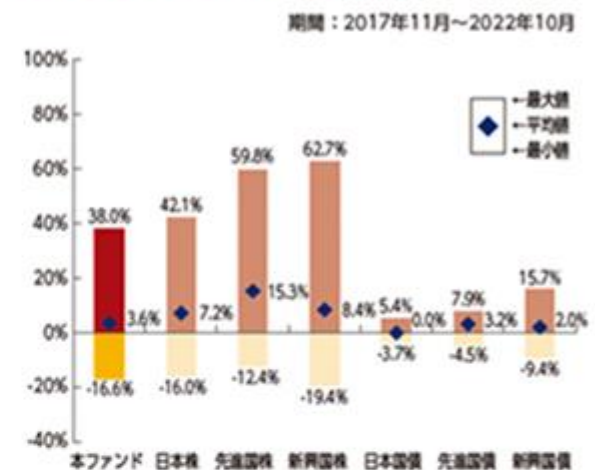
（3）参考情報

下記は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

本ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移



本ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較



● 各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

本ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算した基準価額および当該基準価額の年間騰落率が記載されており、実際の基準価額および実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

- (a) 3.85%（税抜3.5%）を上限として販売会社がそれぞれ定める申込手数料率を取得申込日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせいただくか、申込手数料を記載した書面等をご覧ください。申込手数料は、お申込時にご負担いただきます。

申込手数料は、商品および投資環境に関する情報提供等、ならびに購入に関する事務手続きの対価として販売会社が得る手数料です。

- (b) 販売会社によっては、アジア通貨コース、米ドルコースおよび円コースの間においてスイッチング（乗換え）が可能です。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

本ファンドにおける「スイッチング」とは、アジア通貨コース、米ドルコースおよび円コースの受益者が、当該コースの受益権の一部解約金（手取額）をもってその支払いを行った販売会社で当該コース以外のコースの受益権の取得のお申込みをする場合をいいます。

なお、スイッチングの際には、換金時と同様に換金（解約）されるコースに対して換金にかかる税金が課されることにつきご注意ください。詳しくは、「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5)課税上の取扱い」をご覧ください。

- (c) 自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合には、取得する口数について申込手数料はかかりません。

（２）【換金（解約）手数料】

換金（解約）請求には手数料はかかりません。

（３）【信託報酬等】

以下の支払先が行う本ファンドに関する業務の対価として本ファンドから支払われる信託報酬は、本ファンドの信託財産の計算期間を通じて毎日、本ファンドの信託財産の純資産総額に年率1.903%（税抜1.73%）を乗じて得た額とします。委託会社、受託銀行および販売会社間の配分については以下のとおりとします。なお、販売会社の間における配分については、販売会社の取扱いにかかる純資産総額に応じて決められます。

支払先	役務の内容	配分
委託会社	ファンドの運用、受託銀行への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成 等	年率0.935% （税抜0.85%）
販売会社	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務 等	年率0.935% （税抜0.85%）
受託銀行	ファンドの財産の管理、委託会社からの指図の実行 等	年率0.033% （税抜0.03%）

信託報酬は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。委託会社および販売会社の報酬は本ファンドから委託会社に対して支払われ、販売会社の報酬は委託会社より販売会社に対して支払われます。受託銀行の報酬は本ファンドから受託銀行に対して支払われます。

本ファンドの実質的な投資対象である指定投資信託証券において運用報酬はかかりません。委託会社から各指定投資信託証券の運用会社に対し、その実質的な運用に対する対価として別途報酬が支払われます。

なお、投資信託証券にかかる信託事務の処理等に要する諸費用等が別途かかります。詳しくは前記「第1 ファンドの状況 2 投資方針 (2) 投資対象 (e) 投資対象とする投資信託証券（指定投資信託証券）」をご覧ください。

(4) 【その他の手数料等】

本ファンドから支払われる費用には以下のものがあります（ただし、これらに限定されるものではありません。）。

- (a) 株式等の売買委託手数料
- (b) 外貨建資産の保管費用
- (c) 借入金の利息、受託銀行等の立替えた立替金の利息
- (d) 信託財産に関する租税
- (e) その他信託事務の処理等に要する諸費用（監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。）

(a)から(d)記載の費用・税金については、ファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、委託会社は、上記(e)記載の諸費用の支払いを信託財産のために行い、その金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、信託財産の純資産総額の年率0.05%相当額を上限として定率で日々計上し、本ファンドより受領します。ただし、委託会社は、信託財産の規模等を考慮して、信託の設定時または期中に、随時かかる諸費用の定率を見直し、0.05%を上限としてこれを変更することができます。

上記(e)記載の諸費用の額は、本ファンドの計算期間を通じて毎日、前営業日の信託財産の純資産総額に応じて計上されます。かかる諸費用は、毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から委託会社に対して支払われます。また、このほかに、組入れる投資信託証券においても、信託事務の処理等に要する諸費用、株式等の売買手数料等取引に関する費用、信託財産に関する租税等が支払われます。

(5) 【課税上の取扱い】

収益分配時・換金時・償還時に受益者が負担する税金は本書提出日現在、以下のとおりです。

ただし、税法が改正された場合には、下記の内容が変更になることがあります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

個人の受益者の場合^{* 1}

時期	項目	税金
収益分配時	所得税および地方税	普通分配金 × 20.315% ^{* 2}
換金時 (解約請求による場合)	所得税および地方税	譲渡益 × 20.315% ^{* 2}
償還時	所得税および地方税	譲渡益 × 20.315% ^{* 2}

* 1 法人の受益者の場合については、後記「収益分配金の課税について」「換金時および償還時の課税について」をご覧ください。

* 2 詳しくは、後記「収益分配金の課税について」「換金時および償還時の課税について」をご覧ください。

上記のほか、申込手数料に対する消費税等相当額をご負担いただきます。

元本払戻金（特別分配金）は投資元本の一部払戻しとみなされ、非課税扱いとなります。

なお、外国での組入有価証券の取引には、当該外国において税金または費用が課せられることがあります。外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が軽減される場合があります。また、信託報酬および信託財産から支払われる費用等について消費税等が課せられる場合には、当該消費税等相当額は信託財産により負担されます。

本ファンドは、課税上、株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は、少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度（NISA）をご利用の場合、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方を対象に、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

NISAの非課税期間内に信託期間が終了（繰上償還を含む）した場合、制度上、本ファンドで利用した非課税投資額（NISA枠）を再利用することはできません。

< 個別元本について >

個別元本とは、追加型株式投資信託について、受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）をいい、税法上の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社ごとに、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等ごとに、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の< 収益分配金の課税について >をご参照ください。）

< 収益分配金の課税について >

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っていた場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っていた場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

個人の受益者に対する課税

個人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、原則として20%（所得税15%、地方税5%）の税率による源泉分離課税が行われ、確定申告は不要です。しかしながら、確定申告により、総合課税（配当控除の適用なし）または申告分離課税のいずれかを選択することもできます。

なお、以下の期間においては適用される税率が異なります。

・2014年1月1日以後2037年12月31日まで：20.315%（所得税15.315%、地方税5%）

所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

収益分配金について上場株式等の配当等として確定申告を行う場合（申告分離課税を選択した場合に限りです。）、他の上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限りです。）および譲渡所得等ならびに特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等との損益通算が可能です。

法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、原則として15%（所得税15%）の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。

なお、以下の期間においては適用される税率が異なります。

・2014年1月1日以後2037年12月31日まで：15.315%（所得税15.315%）

所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

< 換金時および償還時の課税について >

個人の受益者に対する課税

換金時および償還時の譲渡益が課税対象となり、原則として20% (所得税15%、地方税5%) の税率による申告分離課税が適用されます。

なお、以下の期間においては適用される税率が異なります。

- ・ 2014年1月1日以後2037年12月31日まで：20.315%（所得税15.315%、地方税5%）

譲渡益が発生し課税される場合は、源泉徴収選択口座を用いなければ、源泉徴収は行われず、確定申告が必要となります。

また、買取差損益および解約(償還)差損益を含めて上場株式等の譲渡損が発生した場合は、確定申告を行うことにより、他の上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限ります。）および譲渡所得等ならびに特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等との損益通算が可能です。

法人の受益者に対する課税

換金時および償還時の個別元本超過額については、原則として15% (所得税15%) の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。

なお、以下の期間においては適用される税率が異なります。

- ・ 2014年1月1日以後2037年12月31日まで：15.315%（所得税15.315%）

5【運用状況】

(1)【投資状況】

(2022年10月31日現在)

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン	2,672,042,274	95.91
投資証券	アイルランド	71,353,168	2.56
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	—	42,502,071	1.53
合計（純資産総額）	—	2,785,897,513	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2022年10月31日現在)

順位	国／地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
1	ケイマン	投資信託 受益証券	ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニット・トラスト・アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト クラス10(アジア通貨バスケット)	17,704,006.124	151.36	2,679,829,279	150.92	2,672,042,274	95.91
2	アイルランド	投資証券	ゴールドマン・サックス・ファンズ・ビーエルシー - ゴールドマン・サックス US\$リキッド・リザーブズ・ファンド Xアキュムレーション・クラス	44.199	1,613,473.51	71,313,916	1,614,361.59	71,353,168	2.56

業種別及び種類別投資比率

(2022年10月31日現在)

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	95.91
投資証券	2.56
合計	98.47

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

(2022年10月31日現在)

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

(2022年10月31日現在)

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2022年10月31日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第3特定期間末 (2013年4月25日)	44,293	46,017	1.2330	1.2810
第4特定期間末 (2013年10月25日)	24,267	24,571	1.0364	1.0494
第5特定期間末 (2014年4月25日)	11,504	11,937	1.0097	1.0477
第6特定期間末 (2014年10月27日)	12,600	12,905	0.9930	1.0170
第7特定期間末 (2015年4月27日)	19,475	19,925	0.9515	0.9735
第8特定期間末 (2015年10月26日)	19,304	19,838	0.7953	0.8173
第9特定期間末 (2016年4月25日)	13,775	14,253	0.6342	0.6562
第10特定期間末 (2016年10月25日)	9,502	9,665	0.5850	0.5950
第11特定期間末 (2017年4月25日)	6,963	7,080	0.5946	0.6046
第12特定期間末 (2017年10月25日)	7,031	7,093	0.5722	0.5772
第13特定期間末 (2018年4月25日)	5,344	5,396	0.5176	0.5226
第14特定期間末 (2018年10月25日)	4,271	4,318	0.4574	0.4624
第15特定期間末 (2019年4月25日)	4,094	4,136	0.4861	0.4911
第16特定期間末 (2019年10月25日)	3,620	3,661	0.4506	0.4556
第17特定期間末 (2020年4月27日)	2,130	2,160	0.3597	0.3647
第18特定期間末 (2020年10月26日)	2,242	2,271	0.3892	0.3942
第19特定期間末 (2021年4月26日)	3,910	3,958	0.4062	0.4112
第20特定期間末 (2021年10月25日)	3,917	3,968	0.3844	0.3894
第21特定期間末 (2022年4月25日)	3,234	3,280	0.3524	0.3574
第22特定期間末 (2022年10月25日)	2,778	2,826	0.2858	0.2908
2021年10月末日	3,949	-	0.3829	-
11月末日	3,589	-	0.3709	-
12月末日	3,541	-	0.3716	-
2022年1月末日	3,387	-	0.3556	-
2月末日	3,293	-	0.3446	-
3月末日	3,256	-	0.3496	-
4月末日	3,167	-	0.3478	-
5月末日	3,044	-	0.3350	-
6月末日	2,968	-	0.3259	-
7月末日	2,873	-	0.3116	-
8月末日	2,936	-	0.3174	-
9月末日	2,905	-	0.3036	-
10月末日	2,785	-	0.2834	-

(注) 表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第3特定期間	2012年10月26日～2013年4月25日	0.1440
第4特定期間	2013年4月26日～2013年10月25日	0.1110
第5特定期間	2013年10月26日～2014年4月25日	0.1360
第6特定期間	2014年4月26日～2014年10月27日	0.1000
第7特定期間	2014年10月28日～2015年4月27日	0.1230
第8特定期間	2015年4月28日～2015年10月26日	0.1320
第9特定期間	2015年10月27日～2016年4月25日	0.1320
第10特定期間	2016年4月26日～2016年10月25日	0.0600
第11特定期間	2016年10月26日～2017年4月25日	0.0600
第12特定期間	2017年4月26日～2017年10月25日	0.0550
第13特定期間	2017年10月26日～2018年4月25日	0.0300
第14特定期間	2018年4月26日～2018年10月25日	0.0300
第15特定期間	2018年10月26日～2019年4月25日	0.0300
第16特定期間	2019年4月26日～2019年10月25日	0.0300
第17特定期間	2019年10月26日～2020年4月27日	0.0300
第18特定期間	2020年4月28日～2020年10月26日	0.0300
第19特定期間	2020年10月27日～2021年4月26日	0.0300
第20特定期間	2021年4月27日～2021年10月25日	0.0300
第21特定期間	2021年10月26日～2022年4月25日	0.0300
第22特定期間	2022年4月26日～2022年10月25日	0.0300

【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第3特定期間	2012年10月26日～2013年4月25日	30.2
第4特定期間	2013年4月26日～2013年10月25日	6.9
第5特定期間	2013年10月26日～2014年4月25日	10.5
第6特定期間	2014年4月26日～2014年10月27日	8.2
第7特定期間	2014年10月28日～2015年4月27日	8.2
第8特定期間	2015年4月28日～2015年10月26日	2.5
第9特定期間	2015年10月27日～2016年4月25日	3.7
第10特定期間	2016年4月26日～2016年10月25日	1.7
第11特定期間	2016年10月26日～2017年4月25日	11.9
第12特定期間	2017年4月26日～2017年10月25日	5.5
第13特定期間	2017年10月26日～2018年4月25日	4.3
第14特定期間	2018年4月26日～2018年10月25日	5.8
第15特定期間	2018年10月26日～2019年4月25日	12.8
第16特定期間	2019年4月26日～2019年10月25日	1.1
第17特定期間	2019年10月26日～2020年4月27日	13.5
第18特定期間	2020年4月28日～2020年10月26日	16.5
第19特定期間	2020年10月27日～2021年4月26日	12.1
第20特定期間	2021年4月27日～2021年10月25日	2.0
第21特定期間	2021年10月26日～2022年4月25日	0.5
第22特定期間	2022年4月26日～2022年10月25日	10.4

（４）【設定及び解約の実績】

下記特定期間中の設定及び解約の実績ならびに当該特定期間末の発行済み口数は次の通りです。

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
第３特定期間	2012年10月26日～2013年４月25日	51,079,841,955	22,229,282,175	35,922,797,185
第４特定期間	2013年４月26日～2013年10月25日	3,052,808,097	15,559,936,013	23,415,669,269
第５特定期間	2013年10月26日～2014年４月25日	1,959,697,067	13,980,601,229	11,394,765,107
第６特定期間	2014年４月26日～2014年10月27日	5,150,137,120	3,855,036,197	12,689,866,030
第７特定期間	2014年10月28日～2015年４月27日	11,675,711,708	3,897,842,028	20,467,735,710
第８特定期間	2015年４月28日～2015年10月26日	7,551,041,018	3,745,647,814	24,273,128,914
第９特定期間	2015年10月27日～2016年４月25日	4,384,612,962	6,938,061,103	21,719,680,773
第10特定期間	2016年４月26日～2016年10月25日	1,513,253,998	6,988,953,344	16,243,981,427
第11特定期間	2016年10月26日～2017年４月25日	860,274,221	5,394,188,745	11,710,066,903
第12特定期間	2017年４月26日～2017年10月25日	2,261,811,786	1,684,027,455	12,287,851,234
第13特定期間	2017年10月26日～2018年４月25日	508,213,272	2,470,526,061	10,325,538,445
第14特定期間	2018年４月26日～2018年10月25日	353,511,673	1,339,356,173	9,339,693,945
第15特定期間	2018年10月26日～2019年４月25日	279,591,919	1,196,167,161	8,423,118,703
第16特定期間	2019年４月26日～2019年10月25日	961,385,848	1,349,131,062	8,035,373,489
第17特定期間	2019年10月26日～2020年４月27日	290,321,675	2,402,285,636	5,923,409,528
第18特定期間	2020年４月28日～2020年10月26日	392,011,410	552,666,427	5,762,754,511
第19特定期間	2020年10月27日～2021年４月26日	5,238,165,654	1,374,007,250	9,626,912,915
第20特定期間	2021年４月27日～2021年10月25日	2,233,514,269	1,669,022,438	10,191,404,746
第21特定期間	2021年10月26日～2022年４月25日	628,878,106	1,643,058,511	9,177,224,341
第22特定期間	2022年４月26日～2022年10月25日	1,049,812,141	504,875,425	9,722,161,057

(参考) 運用実績

最新の運用実績は委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

下記は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

2022年10月31日現在

基準価額・純資産の推移

2012年11月1日～2022年10月31日



- 分配金再投資基準価額および期間別騰落率(分配金再投資)は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- 基準価額および分配金再投資基準価額は、1万口当たりの値です。

基準価額・純資産総額

基準価額	2,834円
純資産総額	27.9億円

期間別騰落率(分配金再投資)

期間	ファンド
1ヵ月	-5.02%
3ヵ月	-4.47%
6ヵ月	-10.32%
1年	-11.45%
3年	0.92%
5年	2.09%
設定以来	142.55%

分配の推移(1万口当たり、税引前)

決算日	21/11/25	21/12/27	22/1/25	22/2/25	22/3/25	22/4/25	22/5/25	22/6/27	22/7/25	22/8/25	22/9/26	22/10/25	過去1年累計	設定以来
分配金	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	50円	600円	15,800円

- 運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

	銘柄名	国名 ^{*1}	クーポン	償還日 ^{*2}	業種(セクター) ^{*3}	格付け ^{*4}	比率
1	SMC GLOBAL POWER HOLDINGS	フィリピン	6.5000%	—	公益事業	NA	2.9%
2	MONG DUONG FINANCE HOLDINGS	ベトナム	5.1250%	2029/5/7	公益事業	BB	2.0%
3	MGM CHINA HOLDINGS	マカオ	5.8750%	2026/5/15	消費(景気循環型)	B+	2.0%
4	WYNN MACAU LTD	マカオ	5.5000%	2026/1/15	消費(景気循環型)	B	1.8%
5	PT INDIKA ENERGY TBK	インドネシア	8.2500%	2025/10/22	エネルギー	BB-	1.8%
6	WYNN MACAU LTD	マカオ	5.5000%	2027/10/1	消費(景気循環型)	B	1.8%
7	GREENKO SOLAR MAURITIUS	インド	5.9500%	2026/7/29	エネルギー	BB	1.7%
8	STAR ENERGY GEOTHERMAL	インドネシア	6.7500%	2033/4/24	公益事業	BB-	1.5%
9	KOREA ELECTRIC POWER	韓国	5.3750%	2026/4/6	公益事業	AA	1.5%
10	GLOBE TELECOM INC	フィリピン	4.2000%	—	通信	NA	1.4%

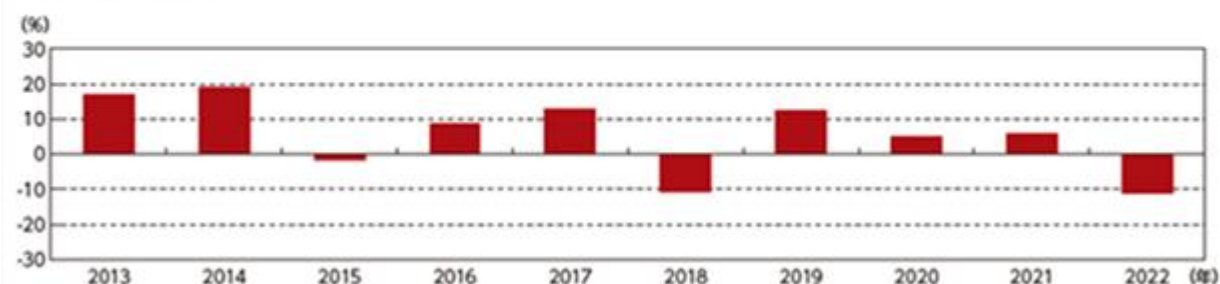
*1 上記の国には地域を含みます。

*2 償還日の定めのない永久債は、「—」と表示しています。

*3 セクターは、ブルームバーグのセクター分類を使用しています。

*4 格付けは、S&P、ムーディーズおよびフィッチ・レーティングスのいずれかの格付機関の低い方の格付けを使用しています。NAは格付機関からの開示がないことを表しています。

年間収益率の推移



- 本ファンドの収益率は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。● 本ファンドにベンチマークはありませんので、ファンド設定日前の年間収益率について記載していません。● 2022年は年初から運用実績作成基準日までの収益率を表示しています。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

(1) 受益権の取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、お買付のお申込みを行うものとします。

お買付のお申込みは、販売会社所定の方法により、毎営業日^{*1}受け付けます。毎営業日の午後3時^{*2}までに、お買付のお申込みが行われかつ当該お申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の申込分とします。当日の受付終了後のお申込みについては、翌営業日のお取扱いとします。

^{*1} 英国証券取引所、ニューヨーク証券取引所もしくはシンガポール証券取引所の休業日またはロンドン、ニューヨークもしくはシンガポールの銀行の休業日（以下「ファンド休業日」といいます。）に該当する場合には、販売会社の営業日であっても、お買付のお申込みはお受けいたしません。収益分配金の再投資に係る追加信託金のお申込みに限り、これを受け付けるものとします。

^{*2} 販売会社によっては午後3時より前に受付を締め切ることがありますので、販売会社にご確認ください。

(2) 収益分配金の受取方法により、収益分配時に収益分配金を受取る「一般コース」、収益分配金が税金を差引かれた後自動的に無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」がありますので、どちらかのコースをお選びいただくことになります（ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。）。一度お選びいただいたコースは原則として途中で変更することはできません。

「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合、お買付に際して、本ファンドにかかる「自動けいぞく投資契約」（販売会社によっては名称が異なる場合があります。）を当該販売会社との間で結んでいただきます。ただし、販売会社によっては、自動けいぞく投資契約を結んだ場合であっても、収益分配金の受取りをご希望の方は、再投資を中止することを申し出ることができます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(3) お買付価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額とします。また、お買付には申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等相当額がかかります。ただし、自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。最新の基準価額は販売会社または下記の照会先で入手可能です。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

電話 : 03 (6437) 6000（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ・アドレス : www.gsam.co.jp

また、原則として、日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄に、基準価額が掲載されます（略称：「アジハイ通貨」）。

(4) お買付単位は、販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、1口の整数倍をもって取得のお申込みに応じます。

(5) お買付代金はお申込みの販売会社にお支払いください。お買付代金の払込期日は販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(6) 販売会社によっては、アジア通貨コース、米ドルコースおよび円コースとの間でのスイッチング（乗換え）ができます。ただし、販売会社によっては、いずれかのコースのみの取扱いとなる場合があります。また、販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合、スイッチングの際に申込手数料がかかる場合があります。スイッチングのお買付単位は、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社までお問い合わせください。なお、スイッチングの際には、換金時と同様にスイッチングにより換金されるコースに対し、税金がかかることにつき、ご注意ください。

(7) 金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情（コンピューターの誤作動等により決済が不能となった場合、基準価額の計算が不能となった場合、計算された基準価額の正確性に合理的な疑いが生じた場合等を含みます。）があると委託会社が判断したときは、販売会社は、受益権の取得申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた取得申込みを取消することができます。

2【換金（解約）手続等】

- (1) ご換金（解約）のお申込みは、毎営業日^{*1}受付けます。毎営業日の午後3時^{*2}までに、ご換金のお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の申込分とします。当日の受付終了後のお申込みについては、翌営業日のお取扱いとします。ご換金場所は販売会社の本・支店、営業所です。

*1 「ファンド休業日」を除きます。

*2 販売会社によっては午後3時より前に受付を締め切る場合がありますので、販売会社にご確認ください。

- (2) 受益者は、販売会社が別途定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

- (3) 一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額とします。手取額は、当該基準価額から、換金にかかる税金を差し引いた金額となります。

詳しくは、「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご覧ください。

- (4) 本ファンドの基準価額は毎営業日算出されます。最新の基準価額は販売会社または下記の照会先で入手可能です。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

電話 : 03 (6437) 6000 (受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで)

ホームページ・アドレス: www.gsam.co.jp

また、原則として、日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄に、基準価額が掲載されます（略称：「アジハイ通貨」）。

- (5) 一部解約金は、受益者による一部解約の実行の請求日から起算して、原則として6営業日目から販売会社を通じて受益者に支払われます。

- (6) 信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たり3億円以上の大口のご換金は制限することがあります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

- (7) 金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情（コンピューターの誤作動等により決済が不能となった場合、基準価額の計算が不能となった場合、計算された基準価額の正確性に合理的な疑いが生じた場合等を含みます。）があると委託会社が判断したときは、上記の一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受付けた一部解約の実行の請求を保留または取消させていただくことがあります。これにより一部解約の実行の請求の受付が中止され、またはすでに受付けた一部解約の実行の請求が保留された場合には、受益者は当該受付中止または請求保留以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止または請求保留を解除した後の最初の基準価額の計算日を一部解約の実行の請求日として上記に準じて計算された価額とします。

3【資産管理等の概要】

（１）【資産の評価】

本ファンド１万口当たりの純資産総額（以下「基準価額」といいます。）は、本ファンドの信託財産の純資産総額をその時の受益権総口数で除して得た額の１万口当たりの額です。「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。なお、外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

本ファンドの基準価額は毎営業日算出されます。最新の基準価額は販売会社または下記の照会先で入手可能です。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

電話：03（6437）6000（受付時間：営業日の午前９時から午後５時まで）

ホームページ・アドレス：www.gsam.co.jp

また、原則として、日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄に、基準価額が掲載されます（略称：「アジハイ通貨」）。年２回（４月および１０月）の決算時および償還時に、期中の運用経過のほか信託財産の内容などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じてお渡しいたします。

運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付請求があった場合には、交付します。

委託会社が設定・運用を行うファンドについては、通常、月次で運用経過について記載したレポートが作成されています。最新のレポートは、販売会社または上記のホームページにおいて入手可能です。

（２）【保管】

該当事項はありません。

（３）【信託期間】

本ファンドの信託期間は2011年10月11日から開始し、2026年10月23日を終了日とします。なお、委託会社は、信託期間の延長が受益者に有利であると認めた場合は、信託期間を延長することができます。また、下記「(5) その他 a. 信託の終了」の場合には、信託は終了します。

（４）【計算期間】

本ファンドの計算期間は、毎月26日から翌月25日までとすることを原則とします。なお、第１計算期間は信託契約締結日から2012年1月25日までとします。以上にかかわらず、この原則により各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日以降の営業日で該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日までとします。

（５）【その他】

a. 信託の終了

(a) 受益権総口数の減少に伴う繰上償還

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合には、受託銀行と合意のうえ、あらかじめ監督官庁に届け出ることにより、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。委託会社は、かかる事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。繰上償還を行う場合は、下記(c) ～ に定める書面決議による手続きを準用します。

(b) 主要投資対象とする投資信託証券に関わる繰上償還

委託会社は、本ファンドが主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合には、受託銀行と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させるものとします。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(c) その他の事由による信託の終了

() 監督官庁の命令があったとき、委託会社の登録取消、解散、業務廃止のとき（ただし監督官庁が信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、信託は、下記b.に記載する受益者の書面決議による決議の効力が発生しない場合を除き、当該投資信託委託会社と受託銀行との間において存続します。）、受託銀行が信託業務を営む銀行でなくなったとき（ただし他の信託銀行が受託者の業務を引継ぐときを除きます。）、受託銀行の辞任または解任に際し新受託者を選任できないときは（新受託者の選任を行う場合は、下記b.に定める手続を準用します。）、委託会社は信託契約を解約し、信託は終了します。なお、受託銀行は、委託会社の承諾を受けて受託者の任務を辞任することができます。また、受託銀行がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託銀行の解任を申立てることができます。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託銀行を解任することはできないものとします。

() また、委託会社は、信託期間中において、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、または正当な理由があるときは、受託銀行と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、上記(c)()の事項について書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

の書面決議において、受益者（委託会社および本ファンドの信託財産に本ファンドの受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託銀行を除きます。以下本(c)および下記b.において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

から までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記から までに規定する手続が困難な場合には適用しません。

b. 約款変更等

委託会社は、監督官庁の命令があったとき、受益者の利益のため必要と認めるときまたは正当な理由があるときは、受託銀行と合意のうえ、信託約款を変更することまたは本ファンドと他のファンドとの併合（投資信託及び投資法人に関する法律に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができ、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、信託約款は本b.「約款変更等」に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

委託会社は、の事項（の変更事項にあってはその変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合の事項にあってはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

の書面決議において、受益者は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

書面決議の効力は、本ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

上記 から までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

から までの規定にかかわらず、本ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行うことはできません。

c．反対受益者の受益権買取請求の不適用

本ファンドは、受益者が一部解約請求を行ったときは、委託会社が本ファンドの一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、上記 a．に規定する信託契約の解約または上記 b．に規定する重大な約款変更等を行う場合において、法令に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

d．関係法人との契約の更改等

委託会社と販売会社との間の募集・販売契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年ごとに自動的に更新されます。募集・販売契約は、当事者間の合意により変更することができます。

e．委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、投資信託委託会社の事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、信託契約に関する事業を承継させることがあります。

f．信託業務の委託等

受託銀行は、委託会社と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託銀行の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

- (a) 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
- (b) 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
- (c) 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること
- (d) 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託銀行は、上記に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が上記に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

上記にかかわらず、受託銀行は、次に掲げる業務を、受託銀行および委託会社が適当と認める者（受託銀行の利害関係人を含みます。）に委託することができるものとします。

- (a) 信託財産の保存に係る業務
 - (b) 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
 - (c) 委託会社のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
 - (d) 受託銀行が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為
- 保管費用は、受益者の負担とし、信託財産中より支弁します。

g．投資信託証券の登録の管理

投資信託財産に属する外国投資信託証券については、受託銀行名義で当該外国投資信託証券の管理会社において登録され、当該外国投資信託証券の発行国または当該管理会社が所在する国内の諸法令および慣例ならびに当該管理会社の諸規則にしたがって管理させることができます。

h．混蔵寄託

金融機関または第一種金融商品取引業者（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本 h．において同じ。）から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者の名義で混蔵寄託できるものとします。

i．信託財産の登記等および記載等の留保等

信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託銀行が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

上記ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託会社または受託銀行が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託銀行が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

j．一部解約の請求および有価証券売却等の指図

委託会社は、信託財産に属する外国投資信託の受益証券にかかる信託契約の一部解約の請求、外国投資証券にかかる買戻し請求、外国投資証券の償還の請求および有価証券の売却等の指図ができます。

k．再投資の指図

委託会社は、上記の規定による一部解約の代金、売却代金、有価証券にかかる償還金等、外国投資信託の受益証券にかかる収益分配金、外国投資証券の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、外国投資証券の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

l．他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

本ファンドの受益者は、委託会社または受託銀行に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

- ・他の受益者の氏名または名称および住所
- ・他の受益者が有する受益権の内容

m．信託期間の延長

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認められたときは、受託銀行と協議のうえ、あらかじめ監督官庁に届出ることにより、信託期間を延長することができます。

n．公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

(1) 収益分配金の受領権に関する内容および権利行使の手続

収益分配金は、原則として本ファンドの毎計算期間の終了日から起算して5営業日までに販売会社を通じて、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者への支払いを開始します。

上記にかかわらず、自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託銀行が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は、自動けいぞく投資契約に基づき、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の取得の申込みに応じるものとします。当該取得申込みにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

販売会社は、受益者が自己に帰属する受益権の全部もしくは一部の口数について、あらかじめ計算期間を指定し、上記の収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込を中止することを申し出た場合においては、上記にかかわらず、当該受益権に帰属する収益分配金を当該計算期間終了のつど受益者に支払うことができます。

受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託銀行から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(2) 償還金の受領権に関する内容および権利行使の手続

償還金（信託終了時の本ファンドの信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した額）は、原則として信託終了日から起算して5営業日までに販売会社を通じて信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者への支払いを開始します。

受益者が、信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託銀行から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(3) 一部解約金の受領権に関する内容および権利行使の手続

一部解約金の受領権に関する内容および権利行使の手続については、前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」をご覧ください。

一部解約金は、受益者による一部解約の実行の請求日から起算して、原則として6営業日目から販売会社を通じて受益者に支払います。

(4) 収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託銀行の免責

受託銀行は、収益分配金については支払開始日（一般コースの場合）および交付開始前（自動けいぞく投資コースの場合）までに、償還金については支払開始日までに、一部解約金については支払日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払い込みます。

受託銀行は、上記により委託会社の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(5) 委託会社の免責

収益分配金、償還金および一部解約金の受益者への支払いについては、当該販売会社に対する支払いをもって委託会社は免責されるものとします。かかる支払いがなされた後は、当該収益分配金、償還金および一部解約金は、源泉徴収されるべき税額（および委託会社が一定期間経過後販売会社より回収した金額があればその金額）を除き、受益者の計算に属する金銭となります。

(6) 換金手続等

前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」をご覧ください。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 本ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に掲載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 本ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

- (3) 本ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（2022年4月26日から2022年10月25日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【G Sアジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コース】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 (2022年 4 月25日現在)	当期 (2022年10月25日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	129,520,021	80,796,249
投資信託受益証券	3,097,974,881	2,664,119,936
投資証券	99,829,679	86,590,066
未収入金	1	1
流動資産合計	3,327,324,582	2,831,506,252
資産合計	3,327,324,582	2,831,506,252
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	45,886,121	48,610,805
未払解約金	41,510,948	-
未払受託者報酬	91,914	76,243
未払委託者報酬	5,208,360	4,320,385
未払利息	285	213
その他未払費用	132,649	115,371
流動負債合計	92,830,277	53,123,017
負債合計	92,830,277	53,123,017
純資産の部		
元本等		
元本	9,177,224,341	9,722,161,057
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 ()	5,942,730,036	6,943,777,822
(分配準備積立金)	556,633,575	539,348,144
元本等合計	3,234,494,305	2,778,383,235
純資産合計	3,234,494,305	2,778,383,235
負債純資産合計	3,327,324,582	2,831,506,252

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4 月25日	当期 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日
営業収益		
受取配当金	334,431,912	319,482,536
受取利息	291	223
有価証券売買等損益	736,040,192	1,070,541,564
為替差損益	405,738,964	435,587,990
営業収益合計	4,130,975	315,470,815
営業費用		
支払利息	23,422	18,669
受託者報酬	570,278	493,669
委託者報酬	32,315,502	27,974,402
その他費用	765,022	740,016
営業費用合計	33,674,224	29,226,756
営業利益又は営業損失（ ）	29,543,249	344,697,571
経常利益又は経常損失（ ）	29,543,249	344,697,571
当期純利益又は当期純損失（ ）	29,543,249	344,697,571
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	7,235,342	383,264
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	6,274,125,832	5,942,730,036
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,037,222,612	334,636,720
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,037,222,612	334,636,720
剰余金減少額又は欠損金増加額	398,822,944	712,860,280
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	398,822,944	712,860,280
分配金	284,695,965	278,509,919
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,942,730,036	6,943,777,822

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区分	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4月25日	当期 自 2022年 4月26日 至 2022年10月25日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法 2. デリバティブの評価基準及び評価方法 3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	投資信託受益証券、投資証券 移動平均法に基づき、法令及び一般社団法人投資信託協会規則に従い、時価評価しております。 為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。 外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。 但し、同61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	投資信託受益証券、投資証券 同左 為替予約取引 同左 外貨建取引等の処理基準 同左

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが当特定期間の翌特定期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

区分	前期 (2022年4月25日現在)	当期 (2022年10月25日現在)
1．元本の推移		
期首元本額	10,191,404,746円	9,177,224,341円
期中追加設定元本額	628,878,106円	1,049,812,141円
期中一部解約元本額	1,643,058,511円	504,875,425円
2．受益権の総数	9,177,224,341口	9,722,161,057口
3．元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は5,942,730,036円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は6,943,777,822円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区分	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4 月25日	当期 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日
分配金の計算過程		
	2021年10月26日から 2021年11月25日までの計算期間	2022年 4 月26日から 2022年 5 月25日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	54,184,108円	48,081,970円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,356,999,551円	3,070,046,447円
分配準備積立金額	615,441,156円	541,245,057円
本ファンドの分配対象収益額	4,026,624,815円	3,659,373,474円
本ファンドの期末残存口数	9,962,199,033口	9,015,409,865口
10,000口当たり収益分配対象額	4,041円	4,059円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	49,810,995円	45,077,049円
	2021年11月26日から 2021年12月27日までの計算期間	2022年 5 月26日から 2022年 6 月27日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	48,842,557円	48,067,070円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,203,360,664円	3,106,517,823円
分配準備積立金額	585,125,618円	537,793,134円
本ファンドの分配対象収益額	3,837,328,839円	3,692,378,027円
本ファンドの期末残存口数	9,489,732,419口	9,088,672,736口
10,000口当たり収益分配対象額	4,043円	4,062円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	47,448,662円	45,443,363円
	2021年12月28日から 2022年 1 月25日までの計算期間	2022年 6 月28日から 2022年 7 月25日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	47,580,086円	48,902,423円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,206,554,276円	3,153,998,675円
分配準備積立金額	581,777,210円	535,122,974円
本ファンドの分配対象収益額	3,835,911,572円	3,738,024,072円
本ファンドの期末残存口数	9,485,432,014口	9,191,692,288口
10,000口当たり収益分配対象額	4,043円	4,066円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	47,427,160円	45,958,461円

区分	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4 月25日	当期 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日
	2022年 1 月26日から 2022年 2 月25日までの計算期間	2022年 7 月26日から 2022年 8 月25日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	48,210,195円	47,352,526円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,224,533,508円	3,161,991,007円
分配準備積立金額	576,169,700円	535,559,978円
本ファンドの分配対象収益額	3,848,913,403円	3,744,903,511円
本ファンドの期末残存口数	9,514,924,245口	9,205,219,955口
10,000口当たり収益分配対象額	4,045円	4,068円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	47,574,621円	46,026,099円
	2022年 2 月26日から 2022年 3 月25日までの計算期間	2022年 8 月26日から 2022年 9 月26日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	49,734,134円	47,226,266円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,157,602,759円	3,273,004,515円
分配準備積立金額	561,747,133円	536,886,405円
本ファンドの分配対象収益額	3,769,084,026円	3,857,117,186円
本ファンドの期末残存口数	9,309,681,204口	9,478,828,528口
10,000口当たり収益分配対象額	4,048円	4,069円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	46,548,406円	47,394,142円
	2022年 3 月26日から 2022年 4 月25日までの計算期間	2022年 9 月27日から 2022年10月25日までの計算期間
費用控除後の配当等収益額	52,062,722円	51,755,627円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	3,119,483,109円	3,372,213,274円
分配準備積立金額	550,456,974円	536,203,322円
本ファンドの分配対象収益額	3,722,002,805円	3,960,172,223円
本ファンドの期末残存口数	9,177,224,341口	9,722,161,057口
10,000口当たり収益分配対象額	4,055円	4,073円
10,000口当たり分配金額	50円	50円
収益分配金金額	45,886,121円	48,610,805円

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区分	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4月25日	当期 自 2022年 4月26日 至 2022年10月25日
1．金融商品に対する取組方針	本ファンドは証券投資信託として、有価証券等への投資ならびにデリバティブ取引を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2．金融商品の内容及びそのリスク	本ファンドが保有する主な金融資産は投資信託受益証券、投資証券であり、売買目的で保有しております。 デリバティブ取引には、通貨関連では為替予約取引が含まれております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避する目的で利用しています。 投資対象とする金融商品の主なリスクは価格が変動する事によって発生する市場リスク、金融商品の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合に発生する信用リスク、及び金融商品の取引量が著しく乏しい場合に発生する流動性リスクがあります。	同左
3．金融商品に係るリスク管理体制	コンプライアンス部門ならびにオペレーション部門では、運用チームから独立した立場で、法令や信託約款等を実際の売買取引が則っているか、また日々のポジションのモニタリングを行っております。 マーケット・リスク管理専任部門では、運用チームとは独立した立場で、運用チームにより構築されたポジションのリスク水準をモニタリングし、各運用チーム、リスク検討委員会に報告します。 リスク検討委員会は、法務部・コンプライアンス部を含む各部署の代表から構成されており、マーケット・リスク管理専任部門からの報告事項に対して、必要な報告聴取、調査、検討、決定等を月次で行います。	同左

金融商品の時価等に関する事項

区分	前期 自 2021年10月26日 至 2022年 4 月25日	当期 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	金融商品は時価で計上しているため記載を省略しております。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。 (2) 有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。	(1) 有価証券以外の金融商品 同左 (2) 有価証券 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	前期 (2022年 4 月25日現在)	当期 (2022年10月25日現在)
	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
投資信託受益証券	81,580,702	310,509,571
投資証券	40,852	220,797
合計	81,539,850	310,288,774

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

区分	前期 (2022年４月25日現在)	当期 (2022年10月25日現在)
１口当たり純資産額	0.3524円	0.2858円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

（ア）株式

該当事項はありません。

（イ）株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
米ドル	投資信託 受益証券	ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニッ ト・トラスト - アジア・ハイ・イールド・ボンド・サ ブ・トラスト クラス10(アジア通貨バスケット)	17,507,542.470	17,875,200.86	
	投資証券	ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー - ゴールドマン・サックス US\$リキッド・リザーブズ・ ファンド Xアキュムレーション・クラス	53.386	580,985.42	
小計				18,456,186.28	
				(2,750,710,002)	
合計				2,750,710,002	
				(2,750,710,002)	

（注）１．通貨種類毎の小計欄の（ ）内は、邦貨換算額であります。

２．合計金額欄の（ ）内は、外貨建有価証券に係るもので、内書きであります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資信託受益証券 時価比率	組入投資証券 時価比率	合計金額に対する比率
米ドル	投資信託受益証券 １銘柄	96.9%	-	
	投資証券 １銘柄	-	3.1%	100.0%

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

参考情報

本ファンドは、「ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニット・トラスト - アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト クラスI0(アジア通貨バスケット)」を主要投資対象としております。

「ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニット・トラスト - アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラスト クラスI0(アジア通貨バスケット)」は、ケイマン籍の契約型の外国投資信託です。同投資信託受益証券は、2022年3月31日に計算期間が終了し、英領ケイマン諸島において一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠した財務書類が作成されております。

なお、この投資信託受益証券について、以下に掲載する「資産負債計算書」の情報は、財務書類から抜粋・翻訳したものであり、「投資有価証券明細表」の情報は、当該投資信託受益証券の事務代行会社より入手したデータ（現地2022年3月31日現在）に基づき作成しています。全てのクラスが対象となっております。また、以下に掲載する情報は監査対象外です。

ゴールドマン・サックス・インベストメント・ユニット・トラスト - アジア・ハイ・イールド・ボンド・サブ・トラ
スト クラス10(アジア通貨バスケット)

資産負債計算書
2022年3月31日現在

(単位：米ドル)

資産

流動資産

損益を通じて公正価値で測定する金融資産 273,813,206

未収入金

未収配当金 4,164

未収利息 4,659,761

差入保証金

差入委託証拠金 564,343

差入担保金 270,000

投資売却未収金 135,828

現金および現金等価物 5,743,840

資産合計 285,191,142

負債

流動負債

損益を通じて公正価値で測定する金融負債 139,091

未払金

投資購入未払金 2,499,034

投資信託証券買戻未払金 682,246

投資顧問報酬 109,722

管理事務代行報酬 20,857

監査報酬 70,267

受託報酬 5,537

保管費用 18,490

名義書換事務代行報酬 4,855

投資主サービス報酬 1,699

弁護士報酬 51,570

雑費 270,865

負債合計（買戻可能参加受益証券保有者に帰属する純資産を除く） 3,874,233

買戻可能参加受益証券保有者に帰属する純資産 281,316,909

投資有価証券明細表
2022年3月31日現在

額面	銘柄名称	利率	償還年月日 ／満期日	評価額 (米ドル)	純資産比率 (%)
	債券				
	社債				
	ユーロ				
450,000	Fortune Star BVI Ltd	3.95%	02/10/2026	433,693	0.15
930,000	Huarong Universe Investment Holding Ltd	1.63%	05/12/2022	972,353	0.35
				1,406,046	0.50
	シンガポールドル				
5,250,000	Lippo Malls Indonesia Retail Trust	6.48%	27/09/2022	3,281,481	1.17
				3,281,481	1.17
	米ドル				
2,740,000	ABJA Investment Co Pte Ltd	5.45%	24/01/2028	2,835,900	1.01
1,790,000	ABM Investama Tbk PT	9.50%	05/08/2026	1,643,994	0.58
2,020,000	Adani Electricity Mumbai Ltd	3.95%	12/02/2030	1,836,867	0.65
3,000,000	Adani Green Energy Ltd	4.38%	08/09/2024	2,966,250	1.06
2,540,000	Adani Green Energy Ltd	6.25%	10/12/2024	2,602,008	0.93
1,240,000	Adani Ports & Special Economic Zone Ltd	4.38%	03/07/2029	1,192,446	0.42
970,000	Agile Group Holdings Ltd	6.88%	07/03/2023	198,850	0.07
390,000	Agile Group Holdings Ltd	5.75%	02/01/2025	134,550	0.05
1,885,000	Alam Sutera Realty Tbk	6.25%	02/11/2025	1,299,307	0.46
1,030,000	APL Realty Holdings Pte Ltd	5.95%	02/06/2024	560,709	0.20
1,100,000	Austin BidCo Inc	7.13%	15/12/2028	1,028,500	0.36
337,295	Azure Power Energy Ltd	3.58%	19/08/2026	320,430	0.11
1,680,000	Azure Power Solar Energy Pvt Ltd	5.65%	24/12/2024	1,724,507	0.61
1,580,000	Bangkok Bank PCL/Hong Kong	3.73%	25/09/2029	1,479,299	0.53
1,920,000	Bank Negara Indonesia Persero Tbk PT	3.75%	30/03/2026	1,833,600	0.65
1,390,000	Bank Negara Indonesia Persero Tbk PT	4.30%	24/03/2023	1,275,325	0.45
2,820,000	Bank of East Asia Ltd	5.83%	21/10/2025	2,812,950	1.00
1,660,000	Bukit Makmur Mandiri Utama PT	7.75%	10/02/2026	1,560,400	0.56
1,080,000	CA Magnum Holdings	5.38%	31/10/2026	1,058,400	0.38
2,680,000	CAS Capital No 1 Ltd	4.00%	12/07/2026	2,519,200	0.90
1,300,000	Celestial Miles Ltd	5.75%	31/01/2024	1,280,370	0.45
1,570,000	Central China Real Estate Ltd	7.25%	13/08/2024	698,650	0.25
250,000	Central China Real Estate Ltd	7.90%	07/11/2023	118,750	0.04
550,000	CFLD Cayman Investment Ltd	6.90%	13/01/2023	81,734	0.03
1,940,000	Champion Path Holdings Ltd	4.50%	27/01/2026	1,658,700	0.59
860,000	Champion Path Holdings Ltd	4.85%	27/01/2028	688,557	0.24
1,550,000	China Aoyuan Group Ltd	8.50%	23/01/2022	271,250	0.10
1,750,000	China Aoyuan Group Ltd	5.98%	18/08/2025	297,500	0.11
610,000	China Oil & Gas Group Ltd	4.70%	30/06/2026	582,471	0.21
300,000	China SCE Group Holdings Ltd	7.00%	02/05/2025	159,275	0.06
680,000	China SCE Group Holdings Ltd	6.00%	04/02/2026	344,649	0.12
940,000	CIFI Holdings Group Co Ltd	6.00%	16/07/2025	784,900	0.28
1,910,000	Cikarang Listrindo Tbk PT	4.95%	14/09/2026	1,902,150	0.68
2,783,200	Clean Renewable Power Mauritius Pte Ltd	4.25%	25/03/2027	2,678,642	0.95
581,888	Continuum Energy Levanter Pte Ltd	4.50%	09/02/2027	561,521	0.20
340,000	Country Garden Holdings Co Ltd	6.15%	17/09/2025	263,500	0.09
360,000	Country Garden Holdings Co Ltd	5.63%	15/12/2026	261,000	0.09
270,000	Delhi International Airport Ltd	6.45%	04/06/2029	245,700	0.09
125,000	Delta Merlin Dunia Tekstil PT	2.50%	26/06/2027	29,757	0.01
2,555,000	Delta Merlin Dunia Tekstil PT	0.00%	26/06/2032	167,919	0.06
1,080,000	Easy Tactic Ltd	8.13%	27/02/2023	243,000	0.09
200,000	Easy Tactic Ltd	8.63%	27/02/2024	44,000	0.02
660,000	Easy Tactic Ltd	8.13%	11/07/2024	141,900	0.05
900,000	eHi Car Services Ltd	7.00%	21/09/2026	639,000	0.23
1,270,000	eHi Car Services Ltd	7.75%	14/11/2024	1,031,875	0.37
2,700,000	ENN Clean Energy International Investment Ltd	3.38%	12/05/2026	2,541,010	0.90
1,380,000	Fantasia Holdings Group Co Ltd	10.88%	09/01/2023	200,100	0.07
200,000	Fantasia Holdings Group Co Ltd	11.88%	01/06/2023	30,000	0.01
430,000	Fantasia Holdings Group Co Ltd	9.25%	28/07/2023	64,699	0.02
920,000	Fantasia Holdings Group Co Ltd	10.88%	02/03/2024	133,400	0.05
1,200,000	Far East Horizon Ltd	4.35%	14/06/2022	1,183,008	0.42
300,000	Fortune Star BVI Ltd	5.05%	27/01/2027	252,562	0.09
730,000	Fortune Star BVI Ltd	5.00%	18/05/2026	615,481	0.22
680,000	Future Retail Ltd	5.60%	22/01/2025	393,329	0.14
200,000	FWD Group Ltd	0.00%	15/06/2022	194,661	0.07
2,080,000	Global Prime Capital Pte Ltd	5.95%	23/01/2025	1,996,800	0.71
4,240,000	Globe Telecom Inc	4.20%	02/08/2026	4,102,200	1.46
780,000	GMR Hyderabad International Airport Ltd	4.75%	02/02/2026	754,355	0.27
450,000	Golden Eagle Retail Group Ltd	4.63%	21/05/2023	430,412	0.15

額面	銘柄名称	利率	償還年月日 ／満期日	評価額 (米ドル)	純資産比率 (%)
	債券				
	社債				
	米ドル				
475,300	Greenko Dutch BV	3.85%	29/03/2026	452,129	0.16
6,570,000	Greenko Investment Co	4.88%	16/08/2023	6,586,409	2.34
580,000	Greenko Power II Ltd	4.30%	13/12/2028	551,899	0.20
540,000	Greenko Solar Mauritius Ltd	5.95%	29/07/2026	548,100	0.20
390,000	Greenland Global Investment Ltd	6.75%	26/09/2023	274,950	0.10
2,010,000	Haidilao International Holding Ltd	2.15%	14/01/2026	1,683,375	0.60
2,130,000	HDFC Bank Ltd	3.70%	25/08/2026	1,975,575	0.70
1,740,000	Health & Happiness H&H International Holdings Ltd	5.63%	24/10/2024	1,596,776	0.57
660,000	HPCL-Mittal Energy Ltd	5.45%	22/10/2026	645,150	0.23
400,000	Huarong Finance 2017 Co Ltd	4.75%	27/04/2027	393,000	0.14
1,110,000	Huarong Finance 2017 Co Ltd	4.25%	07/11/2027	1,060,050	0.38
400,000	Huarong Finance II Co Ltd	5.50%	16/01/2025	407,800	0.14
490,000	Huarong Finance II Co Ltd	5.00%	19/11/2025	493,062	0.17
320,000	Huarong Finance II Co Ltd	4.88%	22/11/2026	316,800	0.11
500,000	Huarong Finance II Co Ltd	4.63%	03/06/2026	492,500	0.17
3,050,000	India Airport Infra	6.25%	25/10/2025	2,928,000	1.04
2,300,000	India Green Power Holdings	4.00%	22/02/2027	2,116,000	0.75
4,860,000	Indika Energy Capital IV Pte Ltd	8.25%	22/10/2025	4,884,300	1.74
708,133	Innovate Capital Pte Ltd	6.00%	11/12/2024	354,750	0.13
550,000	iQIYI Inc	2.00%	01/04/2025	437,146	0.15
230,000	iQIYI Inc	4.00%	15/12/2026	160,198	0.06
1,540,000	Jababeka International BV	6.50%	05/10/2023	1,324,400	0.47
1,720,000	Jollibee Worldwide Pte Ltd	3.90%	23/01/2025	1,672,477	0.59
3,840,700	JSW Hydro Energy Ltd	4.13%	18/05/2031	3,610,258	1.28
2,910,000	JSW Infrastructure Ltd	4.95%	21/01/2029	2,782,753	0.99
680,000	Kaisa Group Holdings Ltd	10.88%	23/07/2023	136,340	0.05
3,770,000	Kaisa Group Holdings Ltd	10.88%	30/09/2023	339,300	0.12
700,000	Kaisa Group Holdings Ltd	11.95%	12/11/2023	140,000	0.05
870,000	Kaisa Group Holdings Ltd	9.38%	30/06/2024	160,950	0.06
1,600,000	Kasikornbank PCL/Hong Kong	3.34%	02/10/2026	1,506,108	0.54
920,000	King Talent Management Ltd	5.60%	04/12/2022	859,625	0.31
1,910,000	Krung Thai Bank PCL	4.40%	25/03/2026	1,797,788	0.64
1,220,000	KWG Group Holdings Ltd	6.00%	14/08/2026	469,700	0.17
850,000	Li & Fung Ltd	5.25%	18/07/2019	528,062	0.19
2,432,043	LLPL Capital Pte Ltd	6.88%	04/02/2039	2,430,772	0.86
750,000	Logan Group Co Ltd	5.25%	19/10/2025	157,500	0.06
3,860,000	Medco Oak Tree Pte Ltd	7.38%	14/05/2026	3,917,900	1.39
960,000	Medco Platinum Road Pte Ltd	6.75%	30/01/2025	966,929	0.34
310,000	Meituan	2.13%	28/10/2025	277,569	0.10
1,400,000	Meituan	0.00%	27/04/2027	1,176,350	0.42
3,330,000	Melco Resorts Finance Ltd	4.88%	06/06/2025	3,080,250	1.09
2,600,000	Melco Resorts Finance Ltd	5.25%	26/04/2026	2,366,000	0.84
2,370,000	Melco Resorts Finance Ltd	5.75%	21/07/2028	2,085,600	0.74
270,000	Melco Resorts Finance Ltd	5.63%	17/07/2027	240,300	0.08
9,280,000	MGM China Holdings Ltd	5.88%	15/05/2026	8,529,689	3.03
1,910,000	MGM China Holdings Ltd	4.75%	01/02/2027	1,661,700	0.59
3,160,000	Modern Land China Co Ltd	11.95%	04/03/2024	616,200	0.22
640,000	Modern Land China Co Ltd	12.85%	25/10/2021	124,800	0.04
2,136,659	Modernland Overseas Pte Ltd	3.00%	30/04/2027	993,899	0.35
7,000,000	Mong Duong Finance Holdings BV	5.13%	07/05/2029	6,303,675	2.24
3,309,848	Mongolian Mining Corp	0.00%	01/10/2021	1,158,447	0.41
370,000	Mongolian Mining Corp/Energy Resources LLC	9.25%	15/04/2024	268,484	0.10
4,950,000	NagaCorp Ltd	7.95%	06/07/2024	4,205,941	1.49
1,300,000	NCIG Holdings Pty Ltd	12.50%	31/03/2025	1,383,200	0.49
2,840,000	Network i2i Ltd	5.65%	15/01/2025	2,836,890	1.01
600,000	New Metro Global Ltd	4.63%	15/10/2025	399,000	0.14
750,000	New Oriental Education & Technology Group Inc	2.13%	02/07/2025	701,250	0.25
1,290,000	NIO Inc	0.00%	01/02/2026	1,090,494	0.39
2,090,000	NIO Inc	0.50%	01/02/2027	1,708,738	0.61
2,200,000	North Queensland Export Terminal Pty Ltd	4.45%	15/12/2022	2,123,000	0.75
3,510,000	NWD Finance BVI Ltd	5.25%	22/03/2026	3,477,673	1.24
2,190,000	Pakuwon Jati Tbk PT	4.88%	29/04/2028	2,097,363	0.75
2,970,000	Parkway Pantai Ltd	4.25%	27/07/2022	2,930,091	1.04
1,660,000	Pinduoduo Inc	0.00%	01/12/2025	1,468,378	0.52
200,000	PineBridge Investments LP	6.00%	12/09/2024	189,000	0.07
580,000	Powerlong Real Estate Holdings Ltd	5.95%	30/04/2025	217,500	0.08
990,000	Puma International Financing SA	5.00%	24/01/2026	939,451	0.33
1,880,000	Rakuten Group Inc	5.13%	22/04/2026	1,739,000	0.62
1,460,000	Redsun Properties Group Ltd	9.70%	16/04/2023	270,100	0.10
2,010,000	Redsun Properties Group Ltd	7.30%	13/01/2025	331,650	0.12
200,000	Reliance Communications Ltd	6.50%	06/11/2020	13,785	0.00

額面	銘柄名称	利率	償還年月日 ／満期日	評価額 (米ドル)	純資産比率 (%)
債券					
社債					
米ドル					
710,000	ReNew Power Pvt Ltd	6.45%	27/09/2022	712,856	0.25
400,000	ReNew Power Pvt Ltd	5.88%	05/03/2027	395,320	0.14
2,400,000	ReNew Power Synthetic	6.67%	12/03/2024	2,446,590	0.87
360,000	RKPF Overseas 2019 A Ltd	5.90%	05/03/2025	282,150	0.10
430,000	RKPF Overseas 2020 A Ltd	5.20%	12/01/2026	335,400	0.12
220,000	Ronshine China Holdings Ltd	7.35%	15/12/2023	40,700	0.01
4,250,000	Royal Capital BV	4.88%	05/05/2024	4,264,174	1.51
5,400,000	Royal Capital BV	5.00%	05/02/2026	5,400,824	1.92
2,450,000	Saka Energi Indonesia PT	4.45%	05/05/2024	2,407,854	0.86
200,000	Seazen Group Ltd	6.15%	15/04/2023	155,000	0.05
570,000	Shimao Group Holdings Ltd	6.13%	21/02/2024	168,150	0.06
1,440,000	Shimao Group Holdings Ltd	4.60%	13/07/2030	388,800	0.14
1,115,000	Sino-Ocean Land Treasure III Ltd	4.90%	21/09/2022	725,260	0.26
10,560,000	SMC Global Power Holdings Corp	6.50%	25/04/2024	10,297,848	3.66
2,860,000	SMC Global Power Holdings Corp	7.00%	21/10/2025	2,789,687	0.99
1,830,000	SoftBank Group Corp	6.00%	19/07/2023	1,752,225	0.62
455,000	SoftBank Group Corp	5.13%	19/09/2027	424,856	0.15
570,000	SoftBank Group Corp	6.88%	19/07/2027	561,450	0.20
1,990,000	Sri Rejeki Isman Tbk PT	7.25%	16/01/2025	268,650	0.10
670,000	SSMS Plantation Holdings Pte Ltd	7.75%	23/01/2023	385,417	0.14
3,572,862	Star Energy Geothermal Wayang Windu Ltd	6.75%	24/04/2033	3,789,261	1.35
1,200,000	Studio City Co Ltd	7.00%	15/02/2027	1,169,160	0.42
830,000	Studio City Finance Ltd	6.00%	15/07/2025	755,300	0.27
3,550,000	Studio City Finance Ltd	6.50%	15/01/2028	3,035,250	1.08
840,000	Studio City Finance Ltd	5.00%	15/01/2029	649,041	0.23
1,390,000	Sunac China Holdings Ltd	5.95%	26/04/2024	354,450	0.13
610,000	Sunac China Holdings Ltd	6.65%	03/08/2024	155,550	0.05
1,530,000	Sunac China Holdings Ltd	6.80%	20/10/2024	390,150	0.14
480,000	Sunac China Holdings Ltd	7.00%	09/07/2025	122,400	0.04
480,000	Sunac China Holdings Ltd	6.50%	26/01/2026	122,400	0.04
390,000	Sunac China Holdings Ltd	6.50%	10/01/2025	99,450	0.04
480,000	Theta Capital Pte Ltd	8.13%	22/01/2025	487,200	0.17
3,560,000	Theta Capital Pte Ltd	6.75%	31/10/2026	3,413,150	1.21
2,190,000	Tianqi Finco Co Ltd	3.75%	28/11/2022	2,064,491	0.73
1,208,663	Tiger Holdco Pte Ltd	13.00%	10/06/2023	1,184,279	0.42
620,000	Times China Holdings Ltd	5.55%	04/06/2024	269,700	0.10
390,000	Times China Holdings Ltd	6.75%	08/07/2025	157,950	0.06
1,620,000	TMB Bank PCL	4.90%	02/12/2024	1,558,881	0.55
2,580,000	TML Holdings Pte Ltd	5.50%	03/06/2024	2,605,800	0.93
440,000	TML Holdings Pte Ltd	4.35%	09/06/2026	416,900	0.15
2,330,000	UPL Corp Ltd	5.25%	27/02/2025	2,164,372	0.77
2,360,000	Vedanta Resources Finance II PLC	8.95%	11/03/2025	2,301,000	0.82
1,080,000	Vedanta Resources Ltd	7.13%	31/05/2023	1,025,552	0.36
4,410,000	Vedanta Resources Ltd	6.13%	09/08/2024	3,847,725	1.37
400,000	Vinpearl JSC	3.25%	21/09/2026	357,420	0.13
2,240,000	VLL International Inc	5.75%	28/11/2024	2,231,404	0.79
740,000	VLL International Inc	7.25%	20/07/2027	750,769	0.27
2,730,000	Vnet Group Inc	0.00%	01/02/2026	2,181,559	0.77
1,100,000	West China Cement Ltd	4.95%	08/07/2026	973,500	0.35
4,000,000	Wynn Macau Ltd	4.88%	01/10/2024	3,680,000	1.31
5,590,000	Wynn Macau Ltd	5.50%	15/01/2026	5,058,950	1.80
6,140,000	Wynn Macau Ltd	5.50%	01/10/2027	5,280,400	1.88
340,000	Yanlord Land HK Co Ltd	5.13%	20/05/2026	309,400	0.11
1,720,000	Yes Bank Ifsc Banking Unit Branch	3.75%	06/02/2023	1,702,508	0.60
3,670,000	Yuzhou Group Holdings Co Ltd	5.38%	29/09/2022	311,950	0.11
2,570,000	Zhenro Properties Group Ltd	9.15%	06/05/2023	308,400	0.10
820,000	Zhenro Properties Group Ltd	7.10%	10/09/2024	98,400	0.03
570,000	Zhenro Properties Group Ltd	6.70%	04/08/2026	59,850	0.02
				256,763,710	91.26
国債					
米ドル					
320,000	Pakistan Government International Bond	6.00%	08/04/2026	252,000	0.09
				252,000	0.09
債券合計				261,703,237	93.02

口数	銘柄名称	評価額 (米ドル)	純資産比率(%)							
投資ファンド										
米ドル										
11,977,742	Goldman Sachs Funds PLC - US\$ Treasury Liquid Reserves Fund, Class X	11,977,742	4.26							
投資ファンド合計		11,977,742	4.26							
売買目的の外国為替予約取引										
償還年月日 / 満期日	通貨 (買)	元本(買)	通貨 (売)	元本(売)	取引相手方	未実現利益 (米ドル)	純資産比率 (%)			
05/05/2022	EUR	29,103	USD	32,075	Deutsche Bank AG	336	0.00			
05/05/2022	EUR	1,151,757	USD	1,274,551	Morgan Stanley & Co	8,147	0.00			
28/04/2022	USD	483,464	HKD	3,768,036	State Street Bank and Trust Co	2,217	0.00			
29/04/2022	USD	3,284,182	SGD	4,414,956	HSBC Bank PLC	22,311	0.01			
05/05/2022	USD	299,840	EUR	2,391,851	JPMorgan Chase & Co	71,991	0.03			
売買目的の外国為替予約取引未実現利益合計						105,002	0.04			
償還年月日 / 満期日				通貨 (買)	元本(買)	通貨 (売)	元本(売)	取引相手方	未実現損失 (米ドル)	純資産比率 (%)
28/04/2022	HKD	790,100	USD	100,937	JPMorgan Chase & Co	(27)	(0.00)			
28/04/2022	HKD	1,506,396	USD	192,499	Royal Bank of Canada	(104)	(0.00)			
売買目的の外国為替予約取引未実現損失合計						(131)	0.00			
ヘッジ目的の外国為替予約取引										
償還年月日 / 満期日	通貨 (買)	元本(買)	通貨 (売)	元本(売)	取引相手方	未実現利益 (米ドル)	純資産比率 (%)			
13/05/2022	IDR	137,511,145,183	USD	9,549,120	Citibank NA	22,056	0.01			
13/05/2022	INR	17,617,927	USD	230,029	HSBC Bank PLC	1,194	0.00			
04/05/2022	KRW	278,144,864	USD	228,323	Bank of America NA	792	0.00			
13/05/2022	USD	166,667	IDR	2,392,350,048	Citibank NA	152	0.00			
13/05/2022	IDR	2,233,162,918	USD	155,244	HSBC Bank PLC	51	0.00			
04/05/2022	USD	66,667	KRW	81,221,004	State Street Bank and Trust Co	486	0.00			
13/05/2022	USD	353,560	IDR	7,011,414,300	Deutsche Bank AG	2,494	0.00			
ヘッジ目的の外国為替予約取引未実現利益合計						27,225	0.01			
償還年月日 / 満期日				通貨 (買)	元本(買)	通貨 (売)	元本(売)	取引相手方	未実現損失 (米ドル)	純資産比率 (%)
04/05/2022	USD	100,000	KRW	123,635,000	JPMorgan Chase & Co	(1,841)	(0.00)			
13/05/2022	USD	370,594	INR	28,797,947	Deutsche Bank AG	(7,359)	(0.00)			
13/05/2022	USD	66,667	IDR	960,320,048	Bank of America NA	(174)	(0.00)			
13/05/2022	USD	100,000	IDR	1,442,390,000	State Street Bank and Trust Co	(395)	(0.00)			
13/05/2022	USD	435,342	IDR	6,271,997,029	HSBC Bank PLC	(1,208)	(0.00)			
13/05/2022	INR	707,456,573	USD	124,336	Deutsche Bank AG	(12,854)	(0.01)			
04/05/2022	KRW	11,225,922,053	USD	155,244	Citibank NA	(99,805)	(0.04)			
04/05/2022	USD	469,812	KRW	356,362,248	Morgan Stanley & Co	(6,518)	(0.00)			
13/05/2022	USD	311,585	INR	7,789,210	Citibank NA	(5,998)	(0.00)			
13/05/2022	USD	200,608	INR	5,132,867	JPMorgan Chase & Co	(2,808)	(0.00)			
ヘッジ目的の外国為替予約取引未実現損失合計						(138,960)	(0.05)			
先物取引										
2022年3月31日時点で現預金 USD 1,305,244 を委託証拠金に供しております。										
枚数	銘柄名称	買建 / 売建	未実現利益 (米ドル)	純資産比率(%)						
(1)	Ultra Bond June 2022	売建	7,133	0.00						
(2)	US 10 Year Note June 2022	売建	7,360	0.00						
(8)	US 2 Year Note June 2022	売建	23,060	0.01						
(14)	US 5 Year Note June 2022	売建	42,983	0.02						
(2)	US Ultra 10 Year Note June 2022	売建	8,735	0.00						
先物取引未実現利益合計			89,271	0.03						
枚数	銘柄名称	買建 / 売建	未実現損失 (米ドル)	純資産比率(%)						
14	Ultra Bond June 2022	買建	(72,266)	(0.03)						
96	US 10 Year Note June 2022	買建	(308,163)	(0.11)						
1	US 2 Year Note June 2022	買建	(1,664)	(0.00)						
111	US 5 Year Note June 2022	買建	(274,835)	(0.10)						
20	US Long Bond June 2022	買建	(87,230)	(0.03)						
40	US Ultra 10 Year Note June 2022	買建	(96,454)	(0.03)						
先物取引未実現損失合計			(840,612)	(0.30)						
スワップ契約未実現利益										
中央清算型金利スワップ										
2022年3月31日時点で現預金 USD 31,489 を委託証拠金として受領しております。										
想定元本額	支払	受取	通貨	償還年月日 / 満期日	未実現利益 (米ドル)	純資産比率(%)				
1,435,036	Fixed, 0.00%	Floating (EUR 6 Month LIBOR)	EUR	16/03/2025	41,930	0.02				
スワップ契約未実現利益合計					41,930	0.02				

投資合計	評価額 (米ドル)	純資産比率(%)
債券合計	261,703,237	93.02
投資ファンド合計	11,977,742	4.26
売買目的の外国為替予約取引未実現利益合計	105,002	0.04
売買目的の外国為替予約取引未実現損失合計	(131)	0.00
ヘッジ目的の外国為替予約取引未実現利益合計	27,225	0.02
ヘッジ目的の外国為替予約取引未実現損失合計	(138,960)	(0.05)
先物取引未実現利益合計	89,271	0.03
先物取引未実現損失合計	(840,612)	(0.30)
金利スワップ未実現利益合計	41,930	0.01
その他資産・負債	8,352,205	2.97
買戻可能参加受益証券保有者に帰属する純資産	281,316,909	100.00

2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2022年10月31日現在)

資産総額	2,849,757,847円
負債総額	63,860,334円
純資産総額（ - ）	2,785,897,513円
発行済口数	9,830,271,996口
1口当たり純資産額（ / ）	0.2834円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

a 受益権の名義書換

該当事項はありません。

b 受益者に対する特典

該当事項はありません。

c 受益権の譲渡制限

該当事項はありません。ただし、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託銀行に対抗することができません。

d その他

本ファンドの受益権は振替受益権であり、委託会社はやむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（本書提出日現在）

資本金の額：金 4 億9,000万円

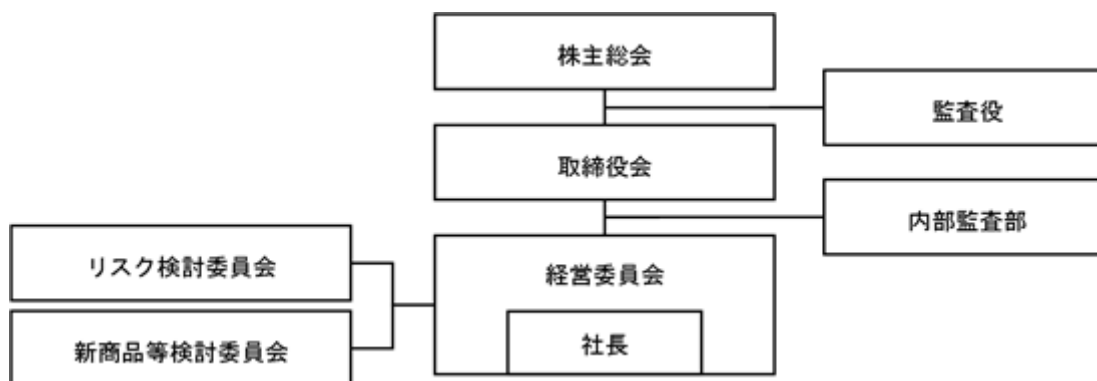
発行する株式の総数：8,000株

発行済株式の総数：6,400株

最近5年間における主な資本の額の増減：該当事項はありません。

(2) 委託会社等の機構

委託会社の業務運営の組織体系は以下の通りです。



経営の意思決定機関として取締役会をおきます。取締役会は、委託会社の業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務を監督します。代表取締役である社長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。取締役は、委嘱された業務の執行にあたり、また、社長に事故あるときにその職務を代行します。

委託会社の業務執行にかかる重要事項を審議する機関として経営委員会をおきます。経営委員会は、取締役会に直属し、定時取締役会が開催されない期間においては、委託会社の業務執行に関して法令により認められる限度で取締役会が有する一切の権限を保持し、執行します（取締役会の専権事項を除きます。）。

リスク検討委員会は、経営委員会の監督の下に、当社の一切の活動における法令遵守、内部統制、オペレーショナル・リスク、システム・リスク等のリスク、および関連するレピュテーション上の問題を監視・監督し、当社の経営理念に沿った各種規定および業務手順が整備されていることを確保するため、権限を行使することができます。また、リスク検討委員会は、適用法令、協会規則、投資信託約款、顧客との運用ガイドラインを遵守するとともに、善良なる管理者としての注意義務および忠実義務の観点から受託者としての責任を遵守するため（議決権行使に関する方針を含みます。）、必要な報告徴収、調査、検討、決定等を行うことができます。

新商品等検討委員会は、経営委員会の監督の下に、新商品等検討委員会規則に基づき、新商品、投資信託の分配方針等に関する正式な検討プロセスを維持することに責任を持ちます。

監査役は、委託会社の会計監査および業務監査を行います。業務の執行は、取締役が行います。

投資運用の意思決定機構

委託会社における投資運用の意思決定は運用本部所属の各部において行われます。運用本部は以下のような部によって構成されています。運用本部の各部では株式運用部長、計量運用部長および債券通貨運用部長がその所属員を指揮監督し、部の業務を統括しています。株式運用部は、日本株の運用を、計量運用部は、計量運用によるタイミング戦略、株式国別配分、債券国別配分および通貨配分などの各戦略をはじめとする多資産クラスの運用ならびに計量運用手法による株式の運用を、債券通貨運用部は、債券および通貨の運用をそれぞれ担当します。それぞれの運用部は各資産クラスの運用について独立した責任と権限をもち、投資運用に関する意思決定を行います。また、運用本部には、上記のほかに、運用投資戦略部、オルタナティブ・インベストメンツ・アンド・マネージャー・セクション部、マルチプロダクト・ファンド部、スチュワードシップ責任推進部およびオルタナティブ・マルチ戦略投資室があります。



投資運用の意思決定には、委託会社が属するゴールドマン・サックスの資産運用部門のリソースが活用されます。委託会社の運用本部はゴールドマン・サックスの資産運用部門のポートフォリオ・マネジメント・チームの構成員として、他の構成員たる様々な地域のポートフォリオ・マネジメント・チームとグローバルな情報交換を行っています。

2【事業の内容及び営業の概況】

事業の内容

投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその投資運用業務および投資助言業務を行っています。また、金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業務および第二種金融商品取引業務を行っています。

委託会社の運用するファンド

2022年10月末現在、委託会社が運用する証券投資信託は以下のとおりです（親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産総額（円）
追加型株式投資信託	126	3,616,052,320,342
単位型株式投資信託	3	87,417,453,501
合計	129	3,703,469,773,843

3【委託会社等の経理状況】

1．財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第27期事業年度（2021年1月1日から2021年12月31日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第28期事業年度の中間会計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人の中間監査を受けております。

（１）【貸借対照表】

期別		第26期 (2020年12月31日現在)			第27期 (2021年12月31日現在)		
資産の部							
科目	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
流動資産		千円	千円	%	千円	千円	%
現金・預金			3,988,117			5,300,580	
短期貸付金			13,342,808			19,685,566	
支払委託金			12			12	
収益分配金		12			12		
前払費用			230,502			293,390	
未収委託者報酬			3,968,522			4,712,043	
未収運用受託報酬			1,971,086			1,806,227	
未収収益			10,811			76,694	
その他流動資産			475			1,201	
流動資産計			23,512,335	90.2		31,875,717	92.4
固定資産							
無形固定資産			373,458			232,062	
ソフトウェア		373,458			232,062		
投資その他の資産			2,184,808			2,398,920	
投資有価証券		622,207			102,402		
長期差入保証金		48,548			45,217		
繰延税金資産		1,315,564			1,875,085		
その他の投資等		198,487			376,214		
固定資産計			2,558,266	9.8		2,630,982	7.6
資産合計			26,070,602	100.0		34,506,699	100.0

期別		第26期 (2020年12月31日現在)			第27期 (2021年12月31日現在)		
負債の部							
科目	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
流動負債		千円	千円	%	千円	千円	%
預り金			99,229			98,250	
未払金			3,013,716			3,944,504	
未払収益分配金		158			80		
未払手数料		1,640,148			2,082,740		
その他未払金		1,373,409			1,861,684		
未払費用	＊ 1		2,986,919			3,665,192	
一年内返済予定の関係会社 長期借入金			4,000,000			2,000,000	
未払法人税等			861,944			1,851,474	
未払消費税等			605,302			835,489	
その他流動負債			195,869			206,851	
流動負債計			11,762,981	45.1		12,601,763	36.5
固定負債							
関係会社長期借入金			2,000,000			5,000,000	
退職給付引当金			382,052			453,175	
長期未払費用	＊ 1		1,228,851			1,926,450	
固定負債計			3,610,904	13.9		7,379,625	21.4
負債合計			15,373,885	59.0		19,981,389	57.9

期別		第26期 (2020年12月31日現在)			第27期 (2021年12月31日現在)		
純資産の部							
科目	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
株主資本		千円	千円	%	千円	千円	%
資本金			490,000			490,000	
資本剰余金			390,000			390,000	
資本準備金		390,000			390,000		
利益剰余金			9,731,934			13,644,338	
その他利益剰余金		9,731,934			13,644,338		
繰越利益剰余金		9,731,934			13,644,338		
株主資本合計			10,611,934	40.7		14,524,338	42.1
評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金		84,781			972		
評価・換算差額等合計			84,781	0.3		972	0.0
純資産合計			10,696,716	41.0		14,525,310	42.1
負債・純資産合計			26,070,602	100.0		34,506,699	100.0

（２）【損益計算書】

期別			第26期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)			第27期 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)		
科目		注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	千円	千円	%	千円	千円	%
		委託者報酬		26,069,145			36,507,456	
		運用受託報酬	* 2	8,163,247			10,477,787	
		その他営業収益	* 2	4,447,923			4,830,349	
		営業収益計		38,680,316	100.0		51,815,594	100.0
		営業費用						
		支払手数料		11,918,306			17,117,709	
		広告宣伝費		91,343			97,432	
		調査費		11,053,082			14,970,069	
		委託調査費	* 2	11,053,082		14,970,069		
		委託計算費		289,006			359,564	
		営業雑経費		302,198			319,051	
		通信費		32,119		26,474		
		印刷費		226,826		248,216		
		協会費		43,252		44,360		
		営業費用計		23,653,937	61.2		32,863,826	63.4
		一般管理費						
		給料		6,981,708			7,979,647	
		役員報酬		243,660		217,075		
		給料・手当		3,380,759		3,516,747		
		賞与		1,402,186		1,947,536		
		株式従業員報酬	* 1	619,783		954,587		
		その他の報酬		1,335,318		1,343,699		
		交際費		29,746			31,673	
		寄付金		225,048			89,689	
		旅費交通費		84,258			51,224	
		租税公課		133,009			172,609	
		退職給付費用		255,577			225,127	
		固定資産減価償却費		83,090			251,336	
		事務委託費		2,143,277			2,809,506	
		諸経費		857,945			911,677	
		一般管理費計		10,793,662	27.9		12,522,492	24.2
		営業利益		4,232,715	10.9		6,429,274	12.4

期別			第26期 (自 2020年 1 月 1 日 至 2020年12月31日)			第27期 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年12月31日)			
科目			注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
経常損益の部	営業外損益の部	営業外収益		千円	千円	%	千円	千円	%
		収益分配金			26,010			62,827	
		受取利息			47,837			63,078	
		為替差益			21,365			-	
		投資有価証券売却益			-			144,479	
		雑益			-			1,354	
		営業外収益計			95,213	0.2		271,739	0.5
		営業外費用							
		支払利息	* 2		37,135			77,330	
		株式従業員報酬	* 1		248,579			692,245	
		為替差損	* 2		-			19,128	
		投資有価証券売却損			212			-	
		雑損			34			-	
		営業外費用計			285,961	0.7		788,703	1.5
経常利益					4,041,967	10.4		5,912,310	11.4
税引前当期純利益					4,041,967	10.4		5,912,310	11.4
法人税、住民税及び事業税					1,535,106	4.0		2,522,432	4.9
法人税等調整額					148,188	0.4		522,524	1.0
当期純利益					2,655,049	6.9		3,912,403	7.6

（３）【株主資本等変動計算書】

第26期
（自2020年１月１日 至2020年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
				繰越利益剰余金					
2020年1月1日残高	490,000	390,000	390,000	12,076,885	12,076,885	12,956,885	82,035	82,035	13,038,920
事業年度中の変動額									
剰余金の配当				5,000,000	5,000,000	5,000,000			5,000,000
当期純利益				2,655,049	2,655,049	2,655,049			2,655,049
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）							2,746	2,746	2,746
事業年度中の変動額合計	-	-	-	2,344,951	2,344,951	2,344,951	2,746	2,746	2,342,204
2020年12月31日残高	490,000	390,000	390,000	9,731,934	9,731,934	10,611,934	84,781	84,781	10,696,716

第27期
（自2021年１月１日 至2021年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
				繰越利益剰余金					
2021年1月1日残高	490,000	390,000	390,000	9,731,934	9,731,934	10,611,934	84,781	84,781	10,696,716
事業年度中の変動額									
当期純利益				3,912,403	3,912,403	3,912,403			3,912,403
株主資本以外の項目 の事業年度中の変動 額（純額）							83,809	83,809	83,809
事業年度中の変動額合計	-	-	-	3,912,403	3,912,403	3,912,403	83,809	83,809	3,828,594
2021年12月31日残高	490,000	390,000	390,000	13,644,338	13,644,338	14,524,338	972	972	14,525,310

重要な会計方針

1．有価証券の評価基準及び評価方法	その他有価証券 時価のあるもの 時価をもって貸借対照表価額とし、取得原価（移動平均法による原価法）ないし償却原価との評価差額については全部純資産直入法によっております。 時価のないもの 移動平均法による原価法によっております。
2．固定資産の減価償却の方法	無形固定資産 無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（３年）に基づく定額法によっております。
3．引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 退職給付引当金 当社は確定拠出年金制度（ＤＣ）とキャッシュ・バランス型の年金制度（ＣＢ）の２本立てからなる退職年金制度を採用しております。また、当該ＣＢには、一定の利回りを保証しており、これの将来の支払いに備えるため、確定給付型の会計基準に準じた会計処理方法により、引当金を計上しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。過去勤務費用は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額を費用処理しております。 (3) 金融商品取引責任準備金 金融商品取引事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の５第１項に基づく責任準備金を計上しております。
4．収益および費用の計上基準	「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）を適用しております。
5．その他財務諸表作成のための基礎となる事項	(1) 株式従業員報酬の会計処理方法 役員及び従業員に付与されております、ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク株式に係る報酬については、企業会計基準第８号「ストック・オプション等に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第11号「ストック・オプション等に関する会計基準の適用指針」に準じて、権利付与日公正価値及び付与された株数に基づき計算される費用を権利確定計算期間にわたり人件費（一般管理費）として処理しております。また、ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インクとの契約に基づき当社が負担する、権利付与日以降の株価の変動により発生する損益については営業外損益として処理しております。 (2) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

（収益認識に関する注記）

第26期 （2020年12月31日現在）	第27期 （2021年12月31日現在）
当社は、投資運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬およびその他営業収益を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。 1．委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって月次、年4回、年2回もしくは年1回受取ります。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。 2．運用受託報酬 運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき月末純資産価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を対象口座によって年4回、年2回もしくは年1回受取ります。当該報酬は対象口座の運用期間にわたり収益として認識しております。また、当社の関係会社から受取る運用受託報酬は、関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識され、月次で受け取ります。 3．その他営業収益 関係会社からの振替収益は、当社の関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識され、月次で受取ります。当該報酬は当社が関係会社にオフショアファンド関連のサービス等を提供する期間にわたり収益として認識しております。 4．成功報酬 成功報酬は対象となるファンドまたは口座の運用益に対する一定割合、もしくは特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は契約上支払われることが確定した時点で収益として認識しております。	同左

（貸借対照表関係）

第26期 (2020年12月31日現在)	第27期 (2021年12月31日現在)
* 1 関係会社項目 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 流動負債 未払費用 1,440,736千円 固定負債 長期未払費用 1,203,974千円	* 1 関係会社項目 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 流動負債 未払費用 1,521,506千円 固定負債 長期未払費用 1,834,697千円

（損益計算書関係）

第26期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	第27期 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
* 1 株式従業員報酬 役員及び従業員に付与されておりますザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク株式に係る報酬に関するものであり、当該株式の株価及び付与された株数に基づき算出し配賦されております。 * 2 関係会社項目 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 営業収益 運用受託報酬 3,737,721千円 その他営業収益 4,103,810千円 営業費用 委託調査費 11,053,082千円 営業外費用 株式従業員報酬 235,480千円 支払利息 37,135千円	* 1 株式従業員報酬 同左 * 2 関係会社項目 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 営業収益 運用受託報酬 5,286,529千円 その他営業収益 4,541,068千円 営業費用 委託調査費 14,970,069千円 営業外費用 株式従業員報酬 692,245千円 支払利息 77,330千円

（株主資本等変動計算書関係）

第26期（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	6,400	-	-	6,400

2．配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2020年12月15日 臨時株主総会	普通株式	5,000,000	781,250	2020年12月17日	2020年12月17日

第27期（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	6,400	-	-	6,400

2．配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

第26期 （自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）	第27期 （自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）
注記すべきリース取引を行っていないため、該当事項はありません。	同左

（金融商品関係）

第26期
（自 2020年1月1日
至 2020年12月31日）

(1) 金融商品の状況に関する事項**金融商品の内容及び金融商品に対する取組方針**

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を含む金融商品取引法により金融商品取引業者が行うことができる業務、及びこれに付帯関連する業務を行っております。これらの業務に関連し、当社は、主に現金・預金、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び投資有価証券といった金融資産を保有しております。なお、当社は、資金運用については短期的な預金や貸付金等の短期金融商品に限定する方針です。投資有価証券は事業推進目的のために保有する当社設定の投資信託であります。また、主な金融負債はその他未払金や関係会社長期借入金であります。

金融商品に係るリスク及びその管理体制

金融商品に係るリスクは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク等であります。当社は、効率的なリスク管理が極めて重要であると考えており、職務の分掌と経営陣による監督は、当社リスク管理手続の重要な要素であります。

信用リスク

当社の信用リスクは主に、銀行預金、短期貸付金、営業債権（当社が運用する投資信託から受領する委託者報酬及び投資一任契約に基づき顧客から受領する運用受託報酬等）に係るものがあります。銀行預金に係る信用リスクについては、預金先銀行の信用力を口座開設時およびその後継続的に評価することによって管理しております。短期貸付金に係る信用リスクについては貸付先をゴールドマン・サックス証券株式会社とし、定期的に金額その他条件を見直すことによって管理しております。

また、営業債権は一年以内に回収される債権であり、社内規程に沿ってリスク管理を行っております。なお、過去に未収委託者報酬及び未収運用受託報酬を回収できなかったケースはございません。

市場リスク

当社は、海外の関連会社との取引により生じた外国通貨建て資産負債を保有していることから、為替相場の変動によるリスクに晒されております。当社は為替リスクを管理するため、外貨建資産負債の純額が予め社内設定した水準を越える場合、当該通貨の売買を行い、為替リスクを削減しております。また、当社は事業推進目的のために当社設定の投資有価証券を保有していることから、基準価額の変動による価格変動リスクに晒されております。係る投資有価証券については運用を行う資産の種類を文書に定め、取得にあたり事前に社内委員会にて検討・承認をし、保有の目的が達成されたと判断された時点で適時処分しております。

流動性および資金調達リスク

当社は、資金運用を短期的な預金や貸付金等の短期金融商品に限定することで流動性リスクを管理しており、当社において流動性リスク及び資金調達リスクは非常に低いものと考えております。また、ゴールドマン・サックスのグループ会社との間で融資枠を設定し、緊急時の資金調達手段を確保し、資金調達リスクに備えております。

第26期
（自 2020年1月1日
至 2020年12月31日）

（2）金融商品の時価等に関する事項

2020年12月31日現在における貸借対照表計上額、貸借対照表日における時価及びその差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金・預金	3,988,117	3,988,117	-
短期貸付金	13,342,808	13,342,808	-
未収委託者報酬	3,968,522	3,968,522	-
未収運用受託報酬	1,971,086	1,971,086	-
投資有価証券			
その他投資有価証券	622,207	622,207	-
その他未払金	1,373,409	1,373,409	-
関係会社長期借入金			
一年内返済予定の関係会社長期借入金	4,000,000	4,000,000	-
関係会社長期借入金	2,000,000	2,000,000	-

金融商品の時価の算定方法

現金・預金、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬及びその他未払金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。投資有価証券については、投資信託であり、直近の基準価額によっております。

一年内返済予定の関係会社長期借入金及び関係会社長期借入金については、変動金利により短期間で市場金利を反映しており、また当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

金銭債権及び満期のある有価証券の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金・預金	3,988,117	-	-	-	-	-
短期貸付金	13,342,808	-	-	-	-	-
未収委託者報酬	3,968,522	-	-	-	-	-
未収運用受託報酬	1,971,086	-	-	-	-	-

長期借入金の返済予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
一年内返済予定の関係会社長期借入金	4,000,000	-	-	-	-	-
関係会社長期借入金	-	2,000,000	-	-	-	-

第27期
(自 2021年1月1日
至 2021年12月31日)

(1) 金融商品の状況に関する事項

金融商品の内容及び金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を含む金融商品取引法により金融商品取引業者が行うことができる業務、及びこれに付帯関連する業務を行っております。これらの業務に関連し、当社は、主に現金・預金、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び投資有価証券といった金融資産を保有しております。なお、当社は、資金運用については短期的な預金や貸付金等の短期金融商品に限定する方針です。投資有価証券は事業推進目的のために保有する当社設定の投資信託であります。また、主な金融負債は未払手数料、その他未払金及び関係会社長期借入金であります。

金融商品に係るリスク及びその管理体制

金融商品に係るリスクは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク等であります。当社は、効率的なリスク管理が極めて重要であると考えており、職務の分掌と経営陣による監督は、当社リスク管理手続の重要な要素であります。

信用リスク

当社の信用リスクは主に、銀行預金、短期貸付金、営業債権（当社が運用する投資信託から受領する委託者報酬及び投資一任契約に基づき顧客から受領する運用受託報酬等）に係るものがあります。銀行預金に係る信用リスクについては、預金先銀行の信用力を口座開設時およびその後継続的に評価することによって管理しております。短期貸付金に係る信用リスクについては貸付先をゴールドマン・サックス証券株式会社とし、定期的に金額その他条件を見直すことによって管理しております。

また、営業債権は一年以内に回収される債権であり、社内規程に沿ってリスク管理を行っております。なお、過去に未収委託者報酬及び未収運用受託報酬を回収できなかったケースはございません。

市場リスク

当社は、海外の関連会社との取引により生じた外国通貨建て資産負債を保有していることから、為替相場の変動によるリスクに晒されております。当社は為替リスクを管理するため、外貨建資産負債の純額が予め社内を設定した水準を越える場合、当該通貨の売買を行い、為替リスクを削減しております。また、当社は事業推進目的のために当社設定の投資有価証券を保有していることから、基準価額の変動による価格変動リスクに晒されております。係る投資有価証券については運用を行う資産の種類を文書に定め、取得にあたり事前に社内委員会にて検討・承認をし、保有の目的が達成されたと判断された時点で適時処分しております。

流動性および資金調達リスク

当社は、資金運用を短期的な預金や貸付金等の短期金融商品に限定することで流動性リスクを管理しており、当社において流動性リスク及び資金調達リスクは非常に低いものと考えております。また、ゴールドマン・サックスのグループ会社との間で融資枠を設定し、緊急時の資金調達手段を確保し、資金調達リスクに備えております。

第27期
(自 2021年1月1日
至 2021年12月31日)

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年12月31日現在における貸借対照表計上額、貸借対照表日における時価及びその差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金・預金	5,300,580	5,300,580	-
短期貸付金	19,685,566	19,685,566	-
未収委託者報酬	4,712,043	4,712,043	-
未収運用受託報酬	1,806,227	1,806,227	-
投資有価証券			
その他投資有価証券	102,402	102,402	-
未払手数料	2,082,740	2,082,740	-
その他未払金	1,861,684	1,861,684	-
関係会社長期借入金			
一年内返済予定の関係会社長期借入金	2,000,000	2,000,000	-
関係会社長期借入金	5,000,000	5,000,000	-

金融商品の時価の算定方法

現金・預金、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払手数料及びその他未払金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。投資有価証券については、投資信託であり、直近の基準価額によっております。

一年内返済予定の関係会社長期借入金及び関係会社長期借入金については、変動金利により短期間で市場金利を反映しており、また当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

金銭債権及び満期のある有価証券の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金・預金	5,300,580	-	-	-	-	-
短期貸付金	19,685,566	-	-	-	-	-
未収委託者報酬	4,712,043	-	-	-	-	-
未収運用受託報酬	1,806,227	-	-	-	-	-

長期借入金の返済予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
一年内返済予定の関係会社長期借入金	2,000,000	-	-	-	-	-
関係会社長期借入金	-	5,000,000	-	-	-	-

（有価証券関係）

第26期 （自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）					第27期 （自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）				
1. その他有価証券で時価のあるもの					1. その他有価証券で時価のあるもの				
区分	種類	取得原価 （千円）	貸借対照 表計上額 （千円）	差額 （千円）	区分	種類	取得原価 （千円）	貸借対照 表計上額 （千円）	差額 （千円）
貸借対照表計上 額が取得原価を 超えるもの	投資証券	500,000	622,207	122,207	貸借対照表計上 額が取得原価を 超えるもの	投資証券	101,000	102,402	1,402
2. 当事業年度中に売却したその他有価証券					2. 当事業年度中に売却したその他有価証券				
売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）			売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）		
13,788	240	453			2,645,479	189,953	45,474		

（デリバティブ取引関係）

第26期 （自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）	第27期 （自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）
当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、 該当事項はありません。	同左

（退職給付関係）

第26期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	第27期 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)																																																																				
1. 採用している退職給付制度の概要 当社は確定拠出年金制度（DC）及びキャッシュ・バランス型年金制度（CB）を採用しております。 2. キャッシュ・バランス型年金制度 (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 <table> <tr> <td>退職給付債務の期首残高</td><td>308,325 千円</td></tr> <tr> <td>勤務費用</td><td>116,203</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>653</td></tr> <tr> <td>転籍</td><td>2,700</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td><td>9,846</td></tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td><td>38,017</td></tr> <tr> <td>過去勤務費用の発生額</td><td>-</td></tr> <tr> <td>退職給付債務の期末残高</td><td><u>399,712</u></td></tr> </table> (2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表 <table> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td><td>399,712</td></tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td><td><u>17,659</u></td></tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債の額</td><td><u>382,052</u></td></tr> </table> (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額 <table> <tr> <td>勤務費用</td><td>116,203</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>653</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td>3,688</td></tr> <tr> <td>過去勤務費用の費用処理額</td><td>-</td></tr> <tr> <td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td><u>120,544</u></td></tr> </table> (4) 数理計算上の計算基礎に関する事項 <table> <tr> <td>割引率</td><td>0.40 %</td></tr> </table> 3. 確定拠出制度 当社の確定拠出制度への要拠出額は、75,589千円です。	退職給付債務の期首残高	308,325 千円	勤務費用	116,203	利息費用	653	転籍	2,700	数理計算上の差異の発生額	9,846	退職給付の支払額	38,017	過去勤務費用の発生額	-	退職給付債務の期末残高	<u>399,712</u>	積立型制度の退職給付債務	399,712	未認識数理計算上の差異	<u>17,659</u>	貸借対照表に計上された負債の額	<u>382,052</u>	勤務費用	116,203	利息費用	653	数理計算上の差異の費用処理額	3,688	過去勤務費用の費用処理額	-	確定給付制度に係る退職給付費用	<u>120,544</u>	割引率	0.40 %	1. 採用している退職給付制度の概要 当社は確定拠出年金制度（DC）及びキャッシュ・バランス型年金制度（CB）を採用しております。 2. キャッシュ・バランス型年金制度 (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 <table> <tr> <td>退職給付債務の期首残高</td><td>399,712 千円</td></tr> <tr> <td>勤務費用</td><td>124,713</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>1,585</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td><td>4,396</td></tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td><td>60,833</td></tr> <tr> <td>過去勤務費用の発生額</td><td><u>78,267</u></td></tr> <tr> <td>退職給付債務の期末残高</td><td><u>539,048</u></td></tr> </table> (2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表 <table> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td><td>539,048</td></tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td><td>7,606</td></tr> <tr> <td>未認識過去勤務費用</td><td><u>78,267</u></td></tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債の額</td><td><u>453,175</u></td></tr> </table> (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額 <table> <tr> <td>勤務費用</td><td>124,713</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>1,585</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td>5,657</td></tr> <tr> <td>過去勤務費用の費用処理額</td><td>-</td></tr> <tr> <td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td><u>131,956</u></td></tr> </table> (4) 数理計算上の計算基礎に関する事項 <table> <tr> <td>割引率</td><td>0.44 %</td></tr> </table> 3. 確定拠出制度 当社の確定拠出制度への要拠出額は、74,862千円です。	退職給付債務の期首残高	399,712 千円	勤務費用	124,713	利息費用	1,585	数理計算上の差異の発生額	4,396	退職給付の支払額	60,833	過去勤務費用の発生額	<u>78,267</u>	退職給付債務の期末残高	<u>539,048</u>	積立型制度の退職給付債務	539,048	未認識数理計算上の差異	7,606	未認識過去勤務費用	<u>78,267</u>	貸借対照表に計上された負債の額	<u>453,175</u>	勤務費用	124,713	利息費用	1,585	数理計算上の差異の費用処理額	5,657	過去勤務費用の費用処理額	-	確定給付制度に係る退職給付費用	<u>131,956</u>	割引率	0.44 %
退職給付債務の期首残高	308,325 千円																																																																				
勤務費用	116,203																																																																				
利息費用	653																																																																				
転籍	2,700																																																																				
数理計算上の差異の発生額	9,846																																																																				
退職給付の支払額	38,017																																																																				
過去勤務費用の発生額	-																																																																				
退職給付債務の期末残高	<u>399,712</u>																																																																				
積立型制度の退職給付債務	399,712																																																																				
未認識数理計算上の差異	<u>17,659</u>																																																																				
貸借対照表に計上された負債の額	<u>382,052</u>																																																																				
勤務費用	116,203																																																																				
利息費用	653																																																																				
数理計算上の差異の費用処理額	3,688																																																																				
過去勤務費用の費用処理額	-																																																																				
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>120,544</u>																																																																				
割引率	0.40 %																																																																				
退職給付債務の期首残高	399,712 千円																																																																				
勤務費用	124,713																																																																				
利息費用	1,585																																																																				
数理計算上の差異の発生額	4,396																																																																				
退職給付の支払額	60,833																																																																				
過去勤務費用の発生額	<u>78,267</u>																																																																				
退職給付債務の期末残高	<u>539,048</u>																																																																				
積立型制度の退職給付債務	539,048																																																																				
未認識数理計算上の差異	7,606																																																																				
未認識過去勤務費用	<u>78,267</u>																																																																				
貸借対照表に計上された負債の額	<u>453,175</u>																																																																				
勤務費用	124,713																																																																				
利息費用	1,585																																																																				
数理計算上の差異の費用処理額	5,657																																																																				
過去勤務費用の費用処理額	-																																																																				
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>131,956</u>																																																																				
割引率	0.44 %																																																																				

（税効果会計関係）

第26期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	第27期 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)																																												
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 繰延税金資産 <table> <tr> <td>未払費用</td><td>447,122 千円</td></tr> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>116,984</td></tr> <tr> <td>長期未払費用</td><td>218,787</td></tr> <tr> <td>無形固定資産</td><td>213,147</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>356,948</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>1,352,990</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td><td>1,352,990</td></tr> </table> 繰延税金負債 <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>37,425</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>37,425</td></tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td><td>37,425</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産純額</td><td>1,315,564</td></tr> </table>	未払費用	447,122 千円	退職給付引当金	116,984	長期未払費用	218,787	無形固定資産	213,147	その他	356,948	小計	1,352,990	繰延税金資産合計	1,352,990	その他有価証券評価差額金	37,425	小計	37,425	繰延税金負債合計	37,425	繰延税金資産純額	1,315,564	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 繰延税金資産 <table> <tr> <td>未払費用</td><td>745,684 千円</td></tr> <tr> <td>退職給付引当金</td><td>138,762</td></tr> <tr> <td>長期未払費用</td><td>302,871</td></tr> <tr> <td>無形固定資産</td><td>207,399</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>480,797</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>1,875,515</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td><td>1,875,515</td></tr> </table> 繰延税金負債 <table> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td><td>429</td></tr> <tr> <td>小計</td><td>429</td></tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td><td>429</td></tr> <tr> <td>繰延税金資産純額</td><td>1,875,085</td></tr> </table>	未払費用	745,684 千円	退職給付引当金	138,762	長期未払費用	302,871	無形固定資産	207,399	その他	480,797	小計	1,875,515	繰延税金資産合計	1,875,515	その他有価証券評価差額金	429	小計	429	繰延税金負債合計	429	繰延税金資産純額	1,875,085
未払費用	447,122 千円																																												
退職給付引当金	116,984																																												
長期未払費用	218,787																																												
無形固定資産	213,147																																												
その他	356,948																																												
小計	1,352,990																																												
繰延税金資産合計	1,352,990																																												
その他有価証券評価差額金	37,425																																												
小計	37,425																																												
繰延税金負債合計	37,425																																												
繰延税金資産純額	1,315,564																																												
未払費用	745,684 千円																																												
退職給付引当金	138,762																																												
長期未払費用	302,871																																												
無形固定資産	207,399																																												
その他	480,797																																												
小計	1,875,515																																												
繰延税金資産合計	1,875,515																																												
その他有価証券評価差額金	429																																												
小計	429																																												
繰延税金負債合計	429																																												
繰延税金資産純額	1,875,085																																												
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 <table> <tr> <td>法定実効税率 (調整)</td><td>30.62 %</td></tr> <tr> <td>賞与等永久に損金に算入されない項目</td><td>3.74 %</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>0.05 %</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>34.31 %</td></tr> </table>	法定実効税率 (調整)	30.62 %	賞与等永久に損金に算入されない項目	3.74 %	その他	0.05 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.31 %	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 <table> <tr> <td>法定実効税率 (調整)</td><td>30.62 %</td></tr> <tr> <td>賞与等永久に損金に算入されない項目</td><td>3.06 %</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>0.15 %</td></tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td>33.83 %</td></tr> </table>	法定実効税率 (調整)	30.62 %	賞与等永久に損金に算入されない項目	3.06 %	その他	0.15 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.83 %																												
法定実効税率 (調整)	30.62 %																																												
賞与等永久に損金に算入されない項目	3.74 %																																												
その他	0.05 %																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.31 %																																												
法定実効税率 (調整)	30.62 %																																												
賞与等永久に損金に算入されない項目	3.06 %																																												
その他	0.15 %																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.83 %																																												
3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 該当事項はありません。	3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 該当事項はありません。																																												

（セグメント情報等）

第26期（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

〔セグメント情報〕

当社の報告セグメントは、投資運用業者として単一であるため、該当事項はありません。

〔関連情報〕

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	オフショア・ファンド 関連報酬等	合計
外部顧客からの収益	26,069,145	8,163,247	4,447,923	38,680,316

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
34,853,688	3,826,628	38,680,316

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

第27期（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

〔セグメント情報〕

当社の報告セグメントは、投資運用業者として単一であるため、該当事項はありません。

〔関連情報〕

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	オフショア・ファンド 関連報酬等	合計
外部顧客からの収益	36,507,456	10,477,787	4,830,349	51,815,594

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
46,436,867	5,378,726	51,815,594

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

（関連当事者情報）

第26期
（自 2020年1月1日
至 2020年12月31日）

親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出 資金	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合	関連当事 者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
親会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー	アメリカ合衆国ニューヨーク州	49 百万ドル	投資顧問業	被所有 間接 75%	投資助言 （注1）	その他営業収益 運用受託報酬 委託調査費	4,103,810 3,737,721 11,053,082	未払費用	637,026
親会社	ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク	アメリカ合衆国ニューヨーク州	11,212 百万ドル	持株会社	被所有 間接 100%	資金援助 （注2） 費用の振替 （注3） 株式報酬	営業外費用	272,615	未払費用 一年内返済予定の 関係会社長期借入金 長期未払費用 関係会社長期借入金	803,710 4,000,000 1,203,974 2,000,000

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）価格その他の取引条件は、関係会社間の契約に基づき決定しております。

（注2）借入利率は市場金利を勘案して決定しております。当初借入期間は2～2.5年であり、担保は差し入れておりません。

（注3）価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。

役員及び個人主要株主等

該当事項はありません。

第26期
（自 2020年1月1日
至 2020年12月31日）

兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出 資金	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所 有）割合	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
親会社 の子会 社	ゴールドマ ン・サック ス証券株式 会社	東京都港 区	83,616 百万円	金融商品取 引業	—	資金の調 達 （注1）	営業外収益	42,859	短期貸付 金 未払費用	13,342,808 359,915
親会社 の子会 社	ゴールドマ ン・サック ス・イン ターナショ ナル	英国 ロンドン	598 百万ドル	証券業	—	費用の振 替 （注2） 資産の保 有等	—	—	未払費用	306,046

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）価格その他の取引条件は、グループ会社間の契約に基づき決定しております。

（注2）価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。

親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所に上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・ホールディングス・エル・エル・シー（未上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（未上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングス・エル・エル・シー（未上場）

第27期
（自 2021年1月1日
至 2021年12月31日）

親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー	アメリカ合衆国ニューヨーク州	128 百万ドル	投資顧問業	被所有 間接 75%	投資助言（注1）	その他営業収益 運用受託報酬 委託調査費	4,541,068 5,286,529 14,970,069	未払費用	365,955
親会社	ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク	アメリカ合衆国ニューヨーク州	10,712 百万ドル	持株会社	被所有 間接 100%	資金援助（注2） 費用の振替（注3） 株式報酬	営業外費用	769,575	未払費用 一年内返済予定の 関係会社長期借入金 長期未払費用 関係会社長期借入金	1,155,551 2,000,000 1,834,697 5,000,000

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）価格その他の取引条件は、関係会社間の契約に基づき決定しております。

（注2）借入利率は市場金利を勘案して決定しております。当初借入期間は2年であり、担保は差し入れておりません。

（注3）価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。

役員及び個人主要株主等

該当事項はありません。

第27期
（自 2021年1月1日
至 2021年12月31日）

兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出 資金	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所 有）割合	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
親会社 の子会 社	ゴールドマ ン・サック ス証券株 式会社	東京都港 区	83,616 百万円	金融商品取 引業	—	資金の調 達 （注1）	営業外収益	63,078	短期貸付 金	19,685,566
									未収収益	59,590
									未払費用	909,832
親会社 の子会 社	ゴールドマ ン・サック ス・イン ターナシ ョナル	英国 ロンドン	598 百万ドル	証券業	—	費用の振 替 （注2） 資産の保 有等	—	—	未払費用	605,697

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）価格その他の取引条件は、グループ会社間の契約に基づき決定しております。

（注2）価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。

親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所に上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・ホールディングス・エル・エル・シー（未上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（未上場）

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル・ホールディングス・エル・エル・

シー（未上場）

（１株当たり情報）

第26期 （自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）		第27期 （自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）	
1株当たり純資産額	1,671,361円97銭	1株当たり純資産額	2,269,579円81銭
1株当たり当期純利益金額	414,851円50銭	1株当たり当期純利益金額	611,313円01銭
損益計算書上の当期純利益	2,655,049千円	損益計算書上の当期純利益	3,912,403千円
1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式に係る当期純利益	2,655,049千円	1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式に係る当期純利益	3,912,403千円
差額	-	差額	-
期中平均株式数		期中平均株式数	
普通株式	6,400株	普通株式	6,400株
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。		同左	

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		第28期 中間会計期間末 (2022年6月30日)
区分	注記番号	金額
資産の部		千円
流動資産		
現金・預金		5,011,878
短期貸付金		19,533,512
支払委託金		12
前払費用		283,666
未収委託者報酬		3,926,648
未収運用受託報酬		1,546,382
未収収益		104,891
その他流動資産		610
流動資産計		30,407,602
固定資産		
無形固定資産		
ソフトウェア		298,297
無形固定資産計		298,297
投資その他の資産		
長期差入保証金		45,208
繰延税金資産		1,098,557
その他の投資等		265,603
投資その他の資産計		1,409,369
固定資産計		1,707,666
資産合計		32,115,268

		第28期 中間会計期間末 (2022年6月30日)
区分	注記番号	金額
負債の部		千円
流動負債		
預り金		104,154
未払金		1,766,024
未払費用		2,677,333
一年内返済予定の関係会社長期借入金		7,000,000
未払法人税等		745,821
未払消費税等	* 1	334,085
賞与引当金		563,405
その他流動負債		197,486
流動負債計		13,388,311
固定負債		
退職給付引当金		511,462
長期未払費用		1,140,021
固定負債計		1,651,483
負債合計		15,039,795
純資産の部		
株主資本		
資本金		490,000
資本剰余金		
資本準備金		390,000
資本剰余金合計		390,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		16,195,473
利益剰余金合計		16,195,473
株主資本合計		17,075,473
純資産合計		17,075,473
負債・純資産合計		32,115,268

(2) 中間損益計算書

		第28期 中間会計期間 (自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日)
区分	注記番号	金額
		千円
営業収益		
委託者報酬		18,006,716
運用受託報酬		5,663,445
その他営業収益		2,536,407
営業収益計		26,206,568
営業費用及び一般管理費		22,546,386
営業利益		3,660,182
営業外収益	* 1	433,449
営業外費用	* 2	117,932
経常利益		3,975,700
税引前中間純利益		3,975,700
法人税、住民税及び事業税		647,607
法人税等調整額		776,957
中間純利益		2,551,135

重要な会計方針

項目	第28期 中間会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
1．有価証券の評価基準及び評価方法	その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 時価をもって中間貸借対照表価額とし、取得原価（移動平均法による原価法）ないし償却原価との評価差額については全部純資産直入法によっております。 市場価格のない株式等 移動平均法による原価法によっております。
2．固定資産の減価償却の方法	無形固定資産 無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年）に基づく定額法によっております。
3．引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当会計期間に帰属する額を計上しています。 (3) 退職給付引当金 当社は確定拠出年金制度（DC）とキャッシュ・バランス型の年金制度（CB）の2本立てからなる退職年金制度を採用しております。また、当該CBには、一定の利回りを保証しており、これの将来の支払いに備えるため、確定給付型の会計基準に準じた会計処理方法により、引当金を計上しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。過去勤務費用は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を費用処理しております。 (4) 金融商品取引責任準備金 金融商品取引事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5第1項に基づく責任準備金を計上しております。
4．収益および費用の計上基準	当社は、投資運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬およびその他営業収益を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。 (1) 委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって月次、年4回、年2回もしくは年1回受け取ります。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

項目	第28期 中間会計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
	(2) 運用受託報酬 運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき月末純資産価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を対象口座によって年4回、年2回もしくは年1回受け取ります。当該報酬は対象口座の運用期間にわたり収益として認識しております。また、当社の関係会社から受け取る運用受託報酬は、関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識され、月次で受け取ります。 (3) その他営業収益 関係会社からの振替収益は、当社の関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識され、月次で受け取ります。当該報酬は当社が関係会社にオフショアファンド関連のサービス等を提供する期間にわたり収益として認識しております。 (4) 成功報酬 成功報酬は対象となるファンドまたは口座の運用益に対する一定割合、もしくは特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は契約上支払われることが確定した時点で収益として認識しております。
5. その他中間財務諸表作成のための基礎となる事項	(1) 株式従業員報酬の会計処理方法 役員及び従業員に付与されております、ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク株式に係る報酬については、企業会計基準第8号「ストック・オプション等に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第11号「ストック・オプション等に関する会計基準の適用指針」に準じて、権利付与日公正価値及び付与された株数に基づき計算される費用を権利確定計算期間にわたり人件費（営業費用及び一般管理費）として処理しております。また、ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インクとの契約に基づき当社が負担する、権利付与日以降の株価の変動により発生する損益については営業外損益として処理しております。 (2) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

会計方針の変更

項目	第28期 中間会計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
時価の算定に関する会計基準等の適用	「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる中間財務諸表に与える影響はありません。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

項目	第28期 中間会計期間末 (2022年6月30日)
* 1 消費税等の取扱い	控除対象の仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債に表示しております。

（中間損益計算書関係）

項目	第28期 中間会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
* 1 営業外収益のうち主要なもの	株式従業員報酬 376,485千円 受取利息 56,684千円
* 2 営業外費用のうち主要なもの	為替差損 79,190千円 支払利息 33,291千円

（リース取引関係）

第28期 中間会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

注記すべきリース取引を行っていないため、該当事項はありません。

（金融商品関係）

第28期 中間会計期間末（2022年6月30日）

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
関係会社長期借入金 一年内返済予定の関係 会社長期借入金	7,000,000	7,000,000	-
負債計	7,000,000	7,000,000	-

（注）現金・預金、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び未払金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、記載を省略しております。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって中間貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

該当事項はありません。

(2) 時価をもって中間貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

（単位：千円）

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
関係会社長期借入金 一年内返済予定の関係 会社長期借入金	-	7,000,000	-	7,000,000
負債計	-	7,000,000	-	7,000,000

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

関係会社長期借入金

一年内返済予定の関係会社長期借入金については、変動金利により短期間で市場金利を反映しており、また当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。これに伴い、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

第28期 中間会計期間末（2022年6月30日）

その他有価証券

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

第28期 中間会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

（収益認識関係）

第28期 中間会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

1．収益の分解情報

収益の分解情報は注記事項（セグメント情報等）に記載のとおりであります。

2．収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針 4．収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

（セグメント情報等）

第28期 中間会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

〔セグメント情報〕

当社の報告セグメントは、投資運用業者として単一であるため、該当事項はありません。

〔関連情報〕

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	オフショア・ ファンド関連報酬等	合計
外部顧客からの収益	18,006,716	5,663,445	2,536,407	26,206,568

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
23,183,079	3,023,489	26,206,568

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

（１株当たり情報）

第28期 中間会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	
1株当たり純資産額	2,668,042円67銭
1株当たり中間純利益金額	398,614円85銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載していません。	
(1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎)	
中間損益計算書上の中間純利益	2,551,135千円
1株当たり中間純利益金額の算定に用いられた普通株式に係る中間純利益	2,551,135千円
差 額	- 千円
期中平均株式数	
普通株式	6,400株

（重要な後発事象）

第28期 中間会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (3) 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

- (1) 委託会社に関し、定款の変更、営業譲渡および営業譲受、出資の状況その他の重要な事項は予定されておりません。
- (2) 本書提出日現在の前1年以内において、訴訟事件その他委託会社等に重要な影響を及ぼした事実および重要な影響を及ぼすことが予想される事実は存在しておりません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託銀行

名称	資本金の額 (2022年3月末日現在)	事業の内容
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (2022年3月末日現在)	事業の内容
三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社	40,500百万円	金融商品取引法に基づき、第一種金融商品取引業を中心としたサービスを提供しています。
浜銀ＴＴ証券株式会社	3,307百万円	
ワイエム証券株式会社	1,270百万円	
東海東京証券株式会社	6,000百万円	
ゴールドマン・サックス証券株式会社	83,616百万円	
ＳＭＢＣ日興証券株式会社 ^{*1}	10,000百万円	
池田泉州ＴＴ証券株式会社	1,250百万円	
ちばぎん証券株式会社	4,374百万円	
東洋証券株式会社	13,494百万円	
西日本シティＴＴ証券株式会社	3,000百万円	
ぐんぎん証券株式会社	3,000百万円	
ほくほくＴＴ証券株式会社 ^{*1}	1,250百万円	
七十七証券株式会社	3,000百万円	
十六ＴＴ証券株式会社	3,000百万円	
マネックス証券株式会社	12,200百万円	

*1 新規のお申込みのお取扱いはいりません。

2【関係業務の概要】

(1) 受託銀行

本ファンドの受託者として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

(2) 販売会社

本ファンドの販売会社として受益権の募集の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行っています。

3【資本関係】

(1) 受託銀行

該当事項はありません。

(2) 販売会社

ゴールドマン・サックス証券株式会社および委託会社は、いずれもザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インクの子会社です。その他は該当事項はありません。

第3【参考情報】

当計算期間において提出した書類は以下のとおりです。

2022年4月28日	臨時報告書
2022年7月25日	有価証券届出書
2022年7月25日	有価証券報告書
2022年7月28日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

2022年3月4日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 和田 渉
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 山口 健志

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第27期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の2021年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注１）上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

（注２）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年12月21日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	和田	渉
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西郷	篤

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているG S アジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コースの2022年4月26日から2022年10月25日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、G S アジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コースの2022年10月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注１）上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

（注２）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年9月5日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	和田	渉
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西郷	篤

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの第28期事業年度の中間会計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注１）上記の中間監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

（注２）XBRLデータは監査の対象には含まれていません。